令和７年度

弘前大学地域創生本部年報

国立大学法人
弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY

目　次

はじめに（ご挨拶）
弘前大学地域創生本部長・弘前大学長　　福田　眞作…… 1

Ⅰ．地域創生本部の体制…… 2
１．地域創生本部について…… 2
２．地域創生本部 構成員名簿…… 3

Ⅱ．地域創生本部の活動…… 6
１．地域創生本部事業…… 6
（１）青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業…… 6
（２）あおもり人材育成・県内定着促進協議会への参画…… 6
（３）広報活動…… 7
２．地域連携推進部門事業…… 8
（１）学生の地元定着に向けた取組…… 8
（２）青森県内自治体等との包括連携協定の締結…… 8
（３）青森県内自治体等との連携調査研究事業…… 10
（４）青森県内自治体首長及び企業経営者等を講師とした講演会の開催…… 11
（５）地方創生ネットワーク会議…… 12
（６）大学コンソーシアム学都ひろさき…… 13
３．地域創生人材育成部門事業…… 18
（１）弘前大学地域創生本部連携推進員…… 18
（２）弘大じょっぱり起業家塾…… 21
４．ボランティアセンター事業…… 23
（１）ボランティア登録者数、ボランティア活動参画者数…… 23
（２）ボランティアセンターの活動…… 24

Ⅲ．サテライト…… 28
１．八戸サテライト…… 28
２．青森サテライト…… 29
３．サテライトキャンパス…… 29

Ⅳ．各学部・研究科等における公開講座等の実施状況…… 32
１．実施件数・参加人数…… 32
２．公開講座等一覧…… 33

Ⅴ．各学部・研究科等の地域連携・地域貢献に関する取組事例…… 72

はじめに

弘前大学地域創生本部では令和４年度から、地域創生本部及びその下で事業を推進するために設置された地域連携推進部門、地域創生人材育成部門、ボランティアセンターの施策や事業実績等をまとめた「弘前大学地域創生本部年報」を発行しております。

本年報は、本学各学部・研究科等の協力も得て、地域創生本部以外の公開講座や地域連携・地域貢献に関する取組の実施状況も収録して、本学全体の地域連携・地域貢献活動を紹介していますので、本学の取組に対する理解を深めていただければ幸いです。

令和７年度は、国立大学法人の第４期中期目標期間における４年目終了時業務実績評価を控え、分岐点の年にあたります。青森県は県外転出と少子高齢化による人口の自然減が加速度的に進んでおり、本学の教育・研究成果を地域課題の解決に活用し、地域と連携した取組を推進するとともに、地域を牽引する人材の育成や、県内自治体・企業等とのネットワーク強化を通じて、地域の中核拠点としての大学の役割を果たすべく、多様な活動を展開しております。

弘前大学は以前から、「世界に発信し、地域と共に創造する」とのスローガンの下に、高等教育機関としての役割を追求してきました。これからも地域活性化の中核拠点としての機能充実・強化を促進し、「地域を支え、地域から支えられる大学」の形成を目指すとともに、今まで培ってきた強固な地域連携を基盤として、しっかりと地域貢献を実現しつつ、得られた教育研究の成果を全国、そして世界に広げていく所存です。
今後とも皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

弘前大学地域創生本部長
弘前大学長
福　田　眞　作



Ⅰ．地域創生本部の体制

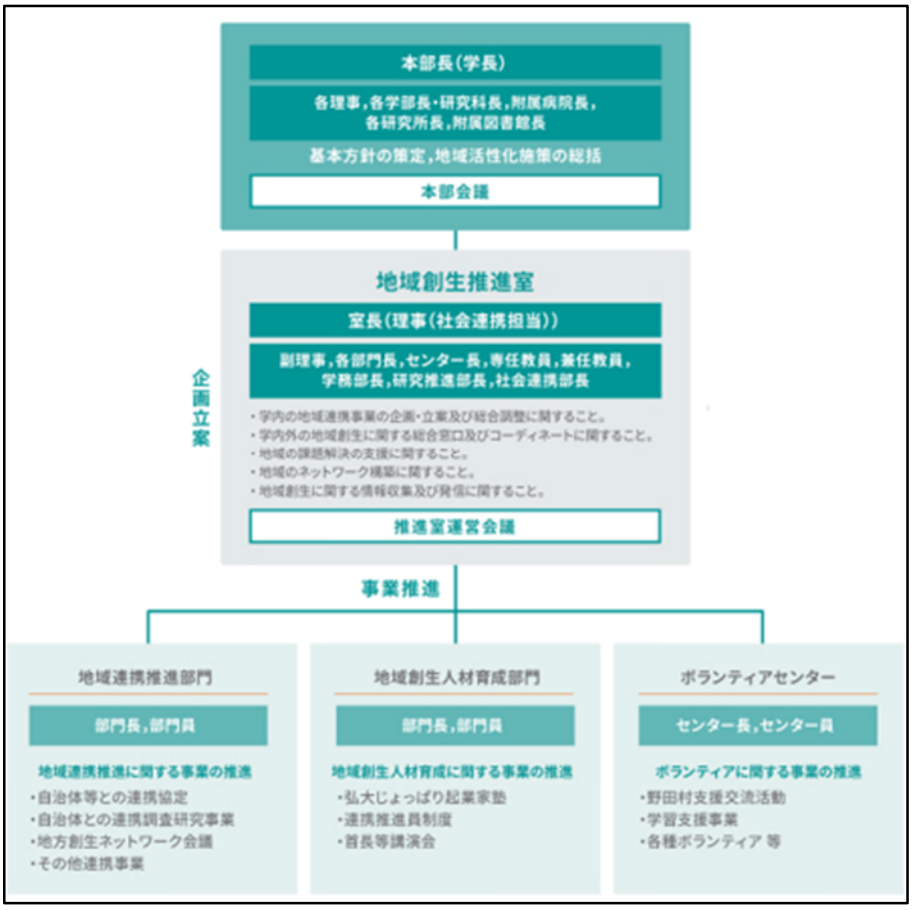
１．地域創生本部について

地域活性化の中核的拠点としての機能の充実・強化に向けて、地域の特性を活かした地域活性化施策を大学一体となって総合的かつ計画的に推進するため、理事（社会連携担当）を機構長として設置していた全学組織「弘前大学社会連携推進機構」を発展的に改組して、平成30年10月、学長を本部長とする「弘前大学地域創生本部」を新たに設置している。

組織のトップを学長が務め、全ての理事、学部長・研究科長等を構成員とする本部は、地域活性化に関する施策の基本方針を策定し、地域活性化の観点で学内組織を横断的に総括する役割を担う。また、平成31年４月には「地域活性化に関する施策の基本方針」を策定している。

本部内に設置する「地域創生推進室」は、基本方針を踏まえた本部の運営、地域活性化施策の企画・立案や総合調整を行うとともに、総合窓口機能の強化に取り組んでいる。同推進室には、地域社会の情勢等に精通する専任の実務家教員１名（准教授）を副室長として配置し、本部の兼任教員である各学部・研究科等の教員と共に地域からの要請に基づく地域課題解決やイノベーション創出の一層の促進、また、青森県全域で取り組む人材育成・地元定着に向けた取組を重点的に進めている。なお、事業推進のため、本部内に「地域連携推進部門」「地域創生人材育成部門」「ボランティアセンター」の３部門を令和２年４月に設置している。

地域創生本部　組織図



地域活性化に関する施策の基本方針（平成31年４月24日策定）

１．地域活性化に寄与する研究や教育を通じて、自治体や企業、地域の団体等と連携し、地域課題の解決に取り組む。

２．地域課題を取り入れた教育を展開するとともに、グローバルな視点を持ち地域を牽引するリーダーやコーディネーターなどの地域活性化に貢献する人材育成に取り組む。

３．地域との連携を推進するための企画・調整を一元的に行うとともに、ネットワーク形成の強化を図りつつ、積極的に情報発信する。

２．地域創生本部　構成員名簿

地域創生本部

令和７年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
学長	福田　眞作	本部長
理事（社会連携担当）	橋本　恭男	副本部長
理事（企画担当）	若林　孝一	
理事（総務担当）	藤波　豊彦	
理事（教育担当）	岡﨑　雅明	
理事（研究担当）	曽我　　亨	
理事（特命担当）	佐野　輝男	
人文社会科学部長	飯島　裕胤	
教育学部長	髙瀬　雅弘	
農学生命科学部長	東　　信行	
大学院医学研究科長	石橋　恭之	
大学院保健学研究科長	敦賀　英知	
大学院理工学研究科長	金本　俊幾	
大学院地域社会研究科長	森　　樹男	
大学院地域共創科学研究科長	小岩　直人	
医学部附属病院長	袴田　健一	
被ばく医療総合研究所長	床次　眞司	
地域戦略研究所長	東　　信行	
グローバルWell-being総合研究所長	石橋　恭之	
附属図書館長	羽渕　一代	

地域創生推進室　　令和７年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
理事（社会連携担当）	橋本　恭男	室長
人文社会科学部　教授	森　　樹男	副室長
地域創生本部　准教授	館　　栄	副室長、専任教員
副理事	小野　厚志	
人文社会科学部　教授	李　　永俊	
教育学部　准教授	佐藤　光輝	
農学生命科学部　教授	石塚　哉史	
農学生命科学部　准教授	前多　隼人	
大学院医学研究科　助教	沢田　かほり	
大学院保健学研究科　准教授	髙橋　純平	
大学院理工学研究科　准教授	上原子　晶久	
大学院理工学研究科　准教授	石田　祐宣	
大学院地域社会研究科　教授	平井　太郎	
大学院地域社会研究科　准教授	土井　良浩	
地域戦略研究所　准教授	永長　一茂	
男女共同参画推進室　助教	山下　　梓	
地域創生本部　助教	（欠員）	専任教員
学務部長	山口　敬一	
研究推進部長　（兼）社会連携部長	古舘　賢樹	

地域連携推進部門　　令和７年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
人文社会科学部　教授	森　　樹男	部門長
農学生命科学部　准教授	前多　隼人	副部門長
教育学部　准教授	佐藤　光輝	
理工学研究科　准教授	石田　祐宣	
農学生命科学部　准教授	永長　一茂	
大学院地域社会研究科　准教授	土井　良浩	
研究推進部長　（兼）社会連携部長	古舘　賢樹	

地域創生人材育成部門　　令和７年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
農学生命科学部　教授	石塚　哉史	部門長
理工学研究科　准教授	上原子　晶久	副部門長

大学院医学研究科　助教	沢田　かほり	
大学院保健学研究科　准教授	髙橋　純平	
研究推進部長　（兼）社会連携部長	古舘　賢樹	

ボランティアセンター　　令和７年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
人文社会科学部　教授	李　　永俊	センター長
人文社会科学部　教授	平野　潔	副センター長
教育学部　准教授	高橋　俊哉	副センター長
農学生命科学部　准教授	石本　雄大	
大学院医学研究科　准教授	冨田　哲	
大学院保健学研究科　准教授	扇野　綾子	
大学院理工学研究科　准教授	藤﨑　和弘	
大学院地域社会研究科　教授	平井　太郎	
男女共同参画推進室　助教	山下　梓	
学務部長	山口　敬一	
研究推進部長　（兼）社会連携部長	古舘　賢樹	

Ⅱ．地域創生本部の活動

１．地域創生本部事業

（１）青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業

青森県と連携し、令和４年３月に策定した「青森県におけるがん検診事業の実施に関する要綱」により、関係機関が共通認識の下で、県民に対して科学的根拠に基づく適切で質の高いがん検診事業を提供し、がんの死亡率を減少させること、また、より多くの県民に対して科学的根拠に基づく適切で質の高いがん検診事業を提供する機会を高めることにより、がんの死亡率減少につなげていくことを目指してきた。

こうした取組により、指針外検診を実施している市町村は、令和７年度には３市町（五所川原市、三沢市、板柳町）まで減少する見通しとなったため、本学と青森県で協議した結果、会議体は当初の役割を果たしたものと判断し、令和７年度をもって廃止することとなった。

令和７年度　青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進委員会　名簿

所属・職名	氏　名	備　考
弘前大学長	福田　眞作	委員長
青森県医師会　会長	高木　伸也	青森県医師会の代表者
黒石市長	髙樋　憲	市町村（市部）の代表者
野辺地町長	野村　秀雄	市町村（町村部）の代表者
青森県総合健診センター　常務理事	下山　克	青森県総合健診センターの代表者
青森県保健所長会　会長	齋藤　和子	青森県保健所長会の代表者
弘前市健康こども部健康増進課 総括主幹兼健康づくり総合推進係長	澤居　吏香子	市町村保健師の代表者
青森県がん検診管理指導監	斎藤　博	有識者（がん検診・県内）
ＪＡ長野厚生連佐久総合病院 佐久医療センター総合医療情報センター	雑賀　公美子	有識者（がん検診・県外）
弘前大学医学部附属病院 医学医療情報学講座　教授	松坂　方士	有識者（疫学）
弘前大学大学院医学研究科 産科婦人科学講座　教授	横山　良仁	有識者（がん医療）
弘前大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座　教授	田坂　定智	有識者（がん医療）
青森県健康福祉部長	守川　義信	

（２）あおもり人材育成・県内定着促進協議会への参画

① 学生の意識調査

青森県における、若者の県内定着に向けた取組を検討する際、学生の考えを反映させた、より効果的な取組を進める上での基礎資料とするため、令和６年度に引き続き、４月から８月に、県内大学等16校の協力の下、各校に在籍する学生を対象に就職地選択に関する意識等についてアンケートを行った。

その分析結果は、あおもり人材育成・県内定着促進協議会での取組の方向性を決める資

料として活用されるとともに、地域創生本部ホームページでも公開している。

※参加大学：青森公立大学、青森県立保健大学、柴田学園大学、弘前学院大学、八戸工業大学、八戸学院大学、青森大学、青森中央学院大学、弘前医療福祉大学、弘前医療福祉大学短期大学部、柴田学園大学短期大学部、青森明の星短期大学、青森中央短期大学、八戸学院大学短期大学部、八戸工業高等専門学校、北里大学獣医学部

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202603-15690/

② 県主催事業

令和７年度は県事業として、「学生ニーズに基づく企業との交流機会の創出」「職場環境の改善や情報発信」「工業分野、医療福祉分野の取組」といった主な取組が示された。

※ 本学参加事業：・県内企業トップリーダーフォーラム
・企業と大学研究室との交流会（理工学部）
・テーマ別企業説明会及び女子学生と若手女性社員との交流会
・工業分野、医療福祉分野の取組に関する関係機関による検討会



県内企業トップリーダーフォーラムの様子



テーマ別企業説明会の様子



女子学生と若手女性社員との交流会の様子

（３）広報活動

① 地域創生本部パンフレット

地域創生本部の情報発信活動の一環として、地域創生本部パンフレットを作成し、地域創生本部ホームページに掲載している。パンフレットは、毎年、内容を更新し発行している。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/annual/





② 地域創生本

部X（旧Twitter）公式アカウント開設

地域創生本部の情報発信活動の一環として、令和４年２月に公式アカウントを開設し、主に地域創生本部の活動を発信している。

２．地域連携推進部門事業

（１）学生の地元定着に向けた取組

① 効果的な情報発信で学生に選ばれる企業を目指した取組

ⅰ）オンライン1/8dayワークショップ

令和４年度における弘前大学＆㈱東北博報堂によるオンライン企業研究のモデル制作や、６年度の㈱高橋製作所（八戸市）での試行経験をもとに、自治体を含め、参加業種を増やし、令和７年11月28日及び令和８年２月10日、３企業（㈱高橋製作所、東北医療福祉事業協同組合、㈱青森電子計算センター）と１自治体（藤崎町）が参加し実行ベースで試行した。

計18名の学生が参加し、企業にとっては学生に選ばれる企業を目指した効果的な情報発信を考える機会となった。また、学生には、地域、業界、企業を知り、働き方を知る機会提供の一助となった。

ⅱ）学生視点での企業HP診断会（就活生による企業採用ページ診断会）

令和８年２月９日、令和５年度に本学及び㈱東北博報堂により制作した「自社の採用ページに関するチェックシート」を活用し、県内２企業に対して実施した。４名の学生が参加し、就活生の目線で県内企業の採用ホームページを診断、評価し、学生の意見を伝えた。

② 起業支援事業の実施

学生等の県内における起業支援事業として、ホップ・ステップ・ジャンプの３段階による教育プログラムのうち、弘前大学地域創生本部において「ジャンプ」にあたる事業を実施した。ホップとしては、教養教育科目で初年次学生を対象に、アイデア出しに関する様々な手法をワークショップ形式で学習する「発想筋を120％にアップ」を、ステップとしては、弘前大学人文社会科学部で高年次学生を対象に、実務家の指導のもと、地域企業から提示された経営課題に対して企画提案を考える「事業計画演習」及び「ビジネス戦略演習」を実施している。地域創生本部ではジャンプの段階の事業として、将来地域で活躍したい社会人や学生を対象に、「弘大じょっぱり起業家塾（基礎・実践コース）」を６月から12月にかけて講義と演習を計９回実施した。

（２）青森県内自治体等との包括連携協定の締結

複雑化する地域課題の解決やイノベーション創出を大学・自治体・産業界が一体となって実現していくことを目指して、弘前大学は、県内自治体や金融機関等と包括連携協定を締結し、地域連携体制の一層の充実を図っている。

令和７年度は、５月に風間浦村、青森県及び国立研究開発法人防災科学技術研究所、そして翌３月に青森みちのく銀行及びあおもり創生パートナーズの三者協定、福島県富岡町、新郷村と計５件の包括連携協定を締結した。これにより本学の包括連携協定締結数は累計50件となった（詳細は以下①～⑤を参照）。このうち、第４期中期目標期間の目標として掲げている県内

市町村との包括連携協定については、すでに目標を達成し、累計27件となった。

① 風間浦村と包括連携協定を締結

令和７年５月１日、風間浦村総合福祉センターげんきかんにおいて、風間浦村との包括的連携協定締結式が執り行われ、県内市町村との包括連携協定は26件となった。

締結式には、風間浦村から冨岡　宏 村長ら６名、弘前大学から福田学長ら６名が出席した。

冨岡村長から「今回の協定締結を通じて弘前大学と一層の協力関係が築かれ地域の活性化につながることを期待しています。大学の有する知的資源を活かし地域課題に迅速かつ適切に対応し活力ある地域社会の形成に向けて村を上げて取り組んでいきたい」旨の挨拶があった。



（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202505-14385/

② 青森県、国立研究開発法人防災科学技術研究所と包括的連携協力協定を締結

令和７年５月30日、青森県及び防災科学技術研究所と包括的な連携協定を締結した。

締結式には、青森県から宮下　宗一郎 知事ら５名、防災科学技術研究所から寶　馨 理事長ら３名、文部科学省から堀内　義規 研究開発局長ら２名が、弘前大学からは福田学長ら３名が出席した。

寶理事長から「当研究所は、地域の克雪と利雪について総合的な研究を行っている。得られた知見を活用し、雪国である青森県の特徴を活かす、連携した取組を推進したい。」旨の挨拶があった。

本協定を契機として、今後は積雪寒冷地域における気候変動下の防災・減災に関する研究をはじめとする自然災害全般に対する地域レジリエンスの向上を目指す研究及び活動を推進し、雪国の特徴を活かした持続可能な社会の実現に資するための連携事業に取り組む。



（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202505-15530/

③ 青森みちのく銀行、あおもり創生パートナーズと包括的連携協力協定を締結

令和８年３月９日、青森みちのく銀行及びあおもり創生パートナーズと包括的な連携協定を締結した。

石川　啓太郎 青森みちのく銀行頭取から「大学の技術・知見とプロクレアグループのネットワークを生かし、地域課題解決や産業振興に貢献するとともに、地域ファンド創設を通じて地域経済活性化を目指していきたい。大学発のビジネスの種は付加価値を生む可能性を秘めており、新たなビジネスの種をしっかりと育てていくよう支援する」旨の挨拶があった。

今回の協定締結に併せて、このたびの連携に伴う取組の一環として、新たな地域ファンド「Hirosaki 共創 1 号投資事業有限責任組合」を創設する旨の発表が行われた。



このファンドでは、大学発の技術や研究成果を活用した事業を中心に、創業初期からプレシード期にある企業への投資を行うとともに、事業の成長に必要な支援を一体的に提供することで、地域経済に新たな

価値を創出し、地域におけるスタートアップ支援の更なる加速を目指していく。
（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202603-15752/

④ 福島県富岡町と包括連携協定を締結

令和８年３月26日、福島県富岡町と包括的な連携協定を締結した。

締結式には、富岡町から山本　育男 町長ら４名が、弘前大学から福田学長ら７名が出席した。

山本町長から「東日本大震災に伴う原発事故から十年以上が経過し、既に町の大部分の避難指示が解除され、徐々に町の賑わいが戻ってきている。これまでの弘前大学との連携実績を踏まえ、今後も協力を深めながら、更なる放射線情報の発信や地域課題の解決、人材育成を通じて、復興と活力ある地域づくりを進めていきたい。」旨の挨拶があった。



（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202604-15795/

⑤ 新郷村と包括連協定を締結

令和８年３月30日、新郷村との包括的な連携協定を締結し、県内市町村との包括連携協定は27件となった。

締結式には、新郷村から佐藤　和友 村長ら５名が、弘前大学から福田学長ら４名が出席した。

佐藤村長から「本協定を大きな節目として、弘前大学の知見や学生の力を活かしながら、村民と共にウェルビーイングな村づくりに取り組んでいきたい。この連携協定が将来的に数々の地域課題を解決する糸口となることを期待している。」旨の挨拶があった。



（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202604-15805/

（３）青森県内自治体等との連携調査研究事業

包括連携協定を締結した県内自治体等との特色ある連携事業として、本学が有する研究シーズを活用して各自治体等が直面している地域課題を解決することを目的とした「連携調査研究事業」を平成28年度から展開している。

本事業は、平成28年度からスタートさせ、令和７年度は21件となっている。これまでの成果として、平川市との連携事業では市所蔵文化財の整理・データベース化及び適切な保管や展示方法を本学の知見を活用して進め、平川市郷土資料館のリニューアルオープンにつなげたこと、また、田子町では、地元産品のニンニクについてDNA情報を用いた品種識別方法の特許出願を行ったことなど、地域課題の解決に向けた各自治体の取組に本学が大きく貢献している。

令和７年度　連携調査研究事業一覧

No.	市町村名	事業名	担当教員
1	鰺ヶ沢町	襖下張り文書の保存と活用に関する研究	人文社会科学部　准教授　片岡　太郎
2	弘前市	第３期弘前市中心市街地活性化基本計画	教育学部　特任教授　北原　啓司

		策定に係る調査研究	
3	平川市	市有財産の利活用に関する調査研究	地域社会研究科　准教授　土井　良浩
4	田子町	田子町の第１次産業の担い手と労働力確保に向けた受援力向上対策	農学生命科学部　助教　髙野　涼
5	田子町	田子町特産にんにくの低環境負荷型栽培法の開発	農学生命科学部　准教授　髙田　晃
6	田子町	四川キュウリの特性に関する研究	農学生命科学部　教授　前田　智雄
7	南部町	若年層向け就農支援体制の構築に関する調査研究　－南部町の新規就農者の増加を目指して－	農学生命科学部　教授　石塚　哉史
8	蓬田村	高収益野菜（タマネギ等）栽培調査研究	農学生命科学部　教授　前田　智雄
9	東通村	東通村農業施策調査研究事業	農学生命科学部　教授　前田　智雄
10	東通村	東通村社会的基盤強化調査研究事業	地域社会研究科　教授　内山　大史
11	三戸町	三戸町小中一貫教育における９年間を見通した英語科指導の確立	教育学部　准教授　佐藤　剛
12	黒石市	IoTシステムによる礫耕栽培メロンの栽培環境・生育状態の可視化	農学生命科学部　教授　張　樹槐
13	中泊町	令和７年度宮越家資料調査研究	人文社会科学部　教授　原　克昭
14	七戸町	七戸町における特産化に向けたラズベリー生産技術の確立	農学生命科学部　助教　登島　早紀
15	八戸市	金装獅噛三累環頭大刀柄頭及び鐺形飾金具の構造と素材に関する研究	人文社会科学部　准教授　片岡　太郎
16	五戸町	五戸町有古文書調査	人文社会科学部　講師　古川　祐貴
17	今別町	いまべつ牛のブランド化に関する調査研究	農学生命科学部　教授　石塚　哉史
18	十和田市	令和７年度十和田市内出土遺物調査	人文社会科学部　教授　関根　達人
19	十和田市	十和田湖及び奥入瀬渓流環境調査	教育学部　教授　小岩　直人
20	十和田市	令和７年度十和田湖占場湖底遺跡古銭の保存学的研究	人文社会科学部　准教授　片岡　太郎
21	風間浦村	風間浦村における政策課題解決の体制づくりに資する地域共創的実践研究	人文社会科学部　教授　羽渕　一代

（４）青森県内自治体首長及び企業経営者等を講師とした講演会の開催

弘前大学の幹部職員が、県内自治体や企業等の地域を志向した事業展開や、地方企業としての経営ノウハウに対する見識を深め、大学の地域活性化に向けた取組を更に推進していくことを目的として、県内自治体首長や企業経営者等を講師とした講演会を開催している。

① むつ市長による講演会

令和７年９月29日、弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールにおいて、山本　知也 むつ市長を講師とする講演会を開催した。

この講演会は、「チャレンジから始まる地方創生 ―地域の「アンパンマン」を目指して―」と題して、地域活性化の中核拠点としての機能充実・強化に向け、地域を志向した事業の展開及び経済に対する見識を深め、今後の地域創生の取組を強化することを目的と

して開催された。

山本市長からは、アンパンマンのように「自分の一部を人のために差し出す」精神が地方創生には必要であること、また、新しいことに挑戦することは批判を伴うが、それでもチャレンジし続けることが大切であることなどを自身の経験も交えてお話いただいた。

講演会には、約50名が参加し、福田学長をはじめ、役員、部局長、教職員が耳を傾けた。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202510-14971/



講演する山本知也市長



会場の様子

② あおもり創生パートナーズ株式会社　代表取締役社長による講演会

令和８年３月２日、弘前大学総合教育棟において、工藤　貴博 あおもり創生パートナーズ株式会社代表取締役社長を講師とする講演会を開催した。

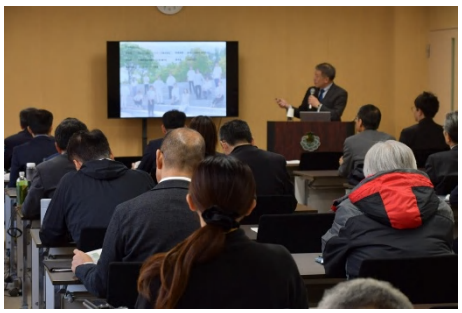
この講演会は、「あおもり創生パートナーズの取組み～地域の成長戦略を地域とともに描き実行する～」と題して、地域活性化の中核拠点としての機能充実・強化に向け、地域を志向した事業の展開及び経済に対する見識を深め、今後の地域創生の取組を強化することを目的として開催された。工藤社長からは、地域の中核企業と自治体、大学をつなぎながら青森県の成長戦略を支える取組について事例を交えながら、今後も「学」と「民」が協力しながら青森の未来を共に創っていきたいなどと述べられた。

講演会には、約36名が参加し、福田学長をはじめ、役員、部局長、教職員が耳を傾けた。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202603-15654/



講演する工藤貴博社長



会場の様子

（５）地方創生ネットワーク会議

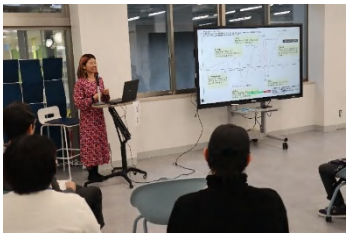
弘前大学と包括連携協定を締結している青森県内の自治体や金融機関、経済団体等が連携して地方創生を推進することを目的として、「弘前大学地方創生ネットワーク会議」を開催し、連携機関間の地方創生に関する課題共有及び課題解決に向けての意見交換を実施している。

令和７年度は、対面形式とオンラインのハイブリッド形式により２回実施、年間延べ参加者数は226人に達した。各回とも外部講師による講演やパネルディスカッション、質疑応答

を通じ、持続可能な地域づくりに向けた多様な実践事例や考え方について理解を深めるとともに、地域における人のつながりや主体的な取組の重要性について議論が行われた。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/cooperation/cooperation03/

令和７年度　地方創生ネットワーク会議（全２回）

実施日	内　容	参加者
10月28日	［講演］　これまでの常識に囚われず、自由な発想で持続可能な仕組みを考え、行動する ～県外進学・留学・就職・Jターン・ゲストハウス起業、「その先へ」～ ［講師］　Rootwave株式会社　代表取締役　鈴木　美朝  講演する鈴木氏  質疑応答の様子	108人
１月23日	［テーマ］　「歩きたくなる“ウォーカブル”なまち」について考える ～一人ひとりの「楽しい！」が交差するまちへ～ ［講師］　一般社団法人OSKINy　代表理事　長内　遼太郎 ［パネルディスカッション］　「楽しい！」が交差するまち【 Book 編 】 ［登壇者］　一般社団法人 OSKINy　代表理事　長内　遼太郎 「まわりみち文庫」　店主　奈良　匠 本の市「はなかり市」　代表　成田　安香音  講演する長内氏  パネルディスカッションの様子	118人

（６）大学コンソーシアム学都ひろさき

平成19年10月に設立した「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」は、令和29年4月に「大学コンソーシアム学都ひろさき」に名称を変更した。しかし、この間一貫して、弘前市内に所在する高等教育機関が協力・連携して、教育・学術研究機能の充実を図り、その成果を地域社会に還元することにより、教育・文化の向上や地域振興に貢献し、併せて学園都市としての弘前市の更なる向上に寄与している。

現在、コンソーシアムは、弘前大学、弘前学院大学、柴田学園大学、放送大学青森学習セ

ンター、弘前医療福祉大学の５大学で構成されている。

主な取組として、「共通授業」「学生地域活動支援事業」「各大学公開講座等助成事業」がある。

① 共通授業

「地域の課題を理解し、地域の発展を考える」をテーマとして地域の課題を具体的に理解しその解決について自ら考えることができる人材を育成することを目的として、オムニバス形式で開講している。

本授業は平成25年度から行い、13年目を迎えている。また、平成28年度からは、弘前学院大学、東北女子大学（現在の柴田学園大学）、弘前大学の３大学で本授業を単位として認定している。



令和７年度　共通授業　（会場：ヒロロ４階　市民文化交流館ホール（弘前市））

実施日	内　容	受講者
８月 19 日	テーマ：地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～ ［概要］生活習慣病とは、食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が、発症・進行に関与する症患群であり、がん、心疾患、脳血管疾患などの病気が含まれる。講義やグループワークを通して、生活習慣病の知識を身に付け、自分の身の回りの人の健康を守るアドバイスの仕方や受け方、ビジネスでの利用を考えることで、生活習慣病について考えを深めてもらう機会にする。 ［担当教員］弘前大学教育学部　教授　島田　美智子 ［ゲストスピーカー］弘前市役所健康こども部健康増進課 課長補佐兼統括保健師　三上　淨子 ［協力教職員等］東京科学大学工学院経営工学系　教授　梅室　博行  グループワークの様子  会場の様子	31人
８月20日	テーマ：子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性 ［概要］近年、少子化や核家族化など子どもを取り巻く環境は大きく変化しており、安心できる遊び場の提供や支援の仕組みがますます重要になってきている。弘前市駅前子ども広場や子ども家庭センターの取組を学び、木との関わりを通して育まれる感性をフィールドワークやグループワークを通じて体験的に理解を深め、子育て支援と遊び環境の重要性を総合的に学ぶことを目的とする。 ［担当教員］柴田学園大学こども発達学科　准教授　安川　由貴子 こども発達学科　助教　　工藤　千華 ［ゲストスピーカー］弘前市健康こども部こども家庭課、弘前市こども家庭センター駅前こどもの広場　保育士　尾崎　暁子	29人

	 発表の様子  グループワークの様子	
８月21日	テーマ：地域共生社会と福祉的課題 ［概要］市内の大学生が、市の職員や教員による講義・演習を通して共に学び、地域の課題を「わがごと」として捉える視点を養い、弘前市を舞台に多様な人々が支え合い、共に暮らす「地域共生社会」と「インクルーシブなまちづくり」の実現について考えることを目的とする。特に、課題解決の具体的な手法として、人と人をつなぐ「新たな場づくり」を企画・提案することを通して、インクルーシブなまちづくりへの具体的な行動を促す機会とする。 ［担当教員］弘前学院大学社会福祉学部　教授　小川　幸裕 ［ゲストスピーカー］弘前市役所福祉部福祉総務課　課長補佐　金川　浩人  グループワークの様子  学生による発表	30人

② 学生地域活動支援事業

学生が企画立案したまちづくり、地域づくりの活動に係る経費の一部を支援する公募型の事業であり、地域課題の解決や地域の活性化につながる学生の活動を支援し、学生による魅力あるまちづくりの推進を図るとともに、地域活動を通じて、学生が地域の一員としての社会的力量を形成することを目的に実施している。

事業公募要項の概要

○応募できる団体
学生で構成される団体(ゼミ、研究室、課外活動団体等)で、次の要件の全てに該当するもの
・学生の活動を教員が実質的に指導していること
・構成員が概ね５人以上であること
・コンソーシアム構成大学の学生で組織された団体であること

○対象事業
弘前市の地域活性化や地域課題の解決を目的に実施する事業で、次の要件全てに該当するもの
・弘前市内で実施される事業であること
・弘前市民を対象にした事業であること

○補助金額
・単一の団体が事業を行う場合　　：上限　100,000円
・異なる大学の団体が連携して事業を行う場合：上限　200,000円

○事業審査及び審査基準
応募書類及び申請団体へのヒアリング等を実施し、「適格性、効果性、適切性、自主性、実現性、公益性、地域性、費用妥当性、将来性、独創性」の10項目で審査し、決定する。

令和７年度　学生地域活動支援事業　採択事業（６件）

採択団体	事業名称/事業実施の様子
地域医療サークルココプラ （弘前大学）	まなプロ～地域医療×多職種連携～  学習会の様子  模擬地域ケア会議の様子
弘大囃子組 （弘前大学）	ねぷた囃子で弘前に元気を届ける！  赤れんが倉庫囃子体験会  けっ晴れ弘前マルシェの際の集合写真
僻地教育研究会Clover （弘前大学）	常盤野の小中学校での学校行事、体育の授業のお手伝い  学校祭の様子  クリスマス会の様子
地域活性化サークル （弘前学院大学）	大学文化祭を活用した町内の紹介と住民との交流  子供たちとの交流の様子  車椅子を使用した施設の方 との交流の様子
多言語企画 （弘前学院大学）	弘前市における多言語表示の推進  外国人向け交通安全パンフレット贈呈式の様子

弘前医療福祉大学救急救命研究会 （弘前医療福祉大学短期大学部）	わくわく！防災救急教室  一次救命処置を体験している様子  防災グッズ体験の様子

③ 各大学公開講座等助成事業

各大学の特色を活かしながら、蓄積する知を広く弘前市民に発信・還元して、本コンソーシアム及び大学を身近な存在として感じ、市民による大学の目的として、構成機関が行う公開講座等事業の実施を助成している。

令和７年度　各大学公開講座等助成事業（７件）

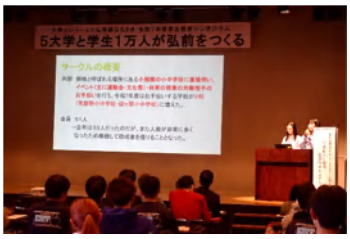
実施日	実施大学	会　場	公開講座名	受講者
10月26日	放送大学	放送大学青森学習センター多目的室	放送大学青森学習センター公開講演会 「音楽の力で心も身体もリフレッシュ！～音楽の効果的利用法～」	25人
９月21日	弘前大学	弘前大学創立５０周年記念会館１階みちのくホール	日本脳神経外科学会東北支部会市民公開講座	30人
12月６日	柴田学園大学短期大学部	柴田学園大学短期大学部　平成館１階　第１調理実習室	特別公開講座 「漁師めしいただきます！！海のプロに学ぶ本気のお魚クッキング」	24人
①７月５日 ②12月６日	柴田学園大学	柴田学園大学　調理学実習室・試食室	特別公開講座 「絵本のごちそうクッキングー親子時間を楽しもうー」	①17人 ②32人
７月22日	弘前大学	コラーニングスペースＨＬＳ弘前	会計教育に関する国際的な公開講座事業	17人
①９月27日 ②12月13日 ③２月21日	弘前大学	①③弘前大学５０周年記念館岩木ホール ②弘前大学教育学部校舎１階大教室	令和７年度弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター主催 教育版画３回連続セミナー「虹の上をとんだ船の『それから』を展望する」	①35人 ②85人 ③25人
２月21日	弘前医療福祉大学短期大学部	土手町コミュニケーションプラザ１階	弘前医療福祉大学短期大学部 「青森県産食材を使った料理作品展」	120人

④ 学生団体シンポジウム

弘前市民に対して、学生の活動を広く公開すること、また、大学の枠を超えた学生同士

の交流の場をつくり、学生活動の更なる活性化を図ることを目的として、例年、学生団体シンポジウムを開催している。

令和７年度は、令和８年２月18日に弘前市民文化交流館ホール（ヒロロ４階）で開催し、会場には約60人の市民、学生、関係者が参加、LIVE配信では約30名が聴講した。



⑤ ひろさき移動キャンパス

「大学コンソーシアム学都ひろさき」の魅力を県外にアピールして、弘前で学びたいという学生の増加、他地域のコンソーシアムとの交流を深めて本コンソーシアムの充実を図ることを目的として、北海道函館市のキャンパス・コンソーシアム函館が主催する「HAKODATEアカデミックリンク（令和７年11月９日開催）」に、本コンソーシアム学生委員会「いしてまい」がブース展示を行い、「飲食店企画」「伝統文化企画」など、地域で取り組んでいる活動を紹介した。



3．地域創生人材育成部門事業

（1）弘前大学地域創生本部連携推進員

青森県内自治体等との連携体制をより一層強化するとともに、地域の人材育成に寄与することを目的として、弘前大学と包括連携協定を締結している機関の職員を「連携推進員」として受け入れている。

連携推進員は、本学の地域連携に関する業務に関わりながら、大学教員との関係を深め、具体的な地域課題解決等の事案を通じて、地域社会との連携を活性化させることを目的として活動する。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/training/training04/


令和7年度連携推進員受入式

① 令和７年度連携推進員名簿（27機関27人）

所属機関・部署	氏　名
鰺ヶ沢町　教育みらい課	神　和葵
弘前市　商工部産業育成課	玉田　香名子
青森県中南地域連携事務所　地域支援課	北谷　紀恵
株式会社青森みちのく銀行 ビジネスパートナー部ビジネスパートナー課	後藤　健汰
西目屋村　総務課	三浦　崇行
弘前商工会議所　中小企業相談所経営二課	岩﨑　匡史
深浦町　観光課	古舘　明香
藤崎町　経営戦略課	川田　寛実
平川市　農林課	谷澤　慧祐

板柳町　商工観光課	芦田　美海
東奥信用金庫　総合企画課	太田　隆盛
青い森信用金庫黒石支店　渉外担当	工藤　匠真
青森県信用組合　総務部	三上　果歩
南部町　交流推進課	畑中　祥太
（株）商工組合中央金庫青森支店　営業課	岡崎　亮平
三戸町　税務課	滝沢　崇幸
青森県信用保証協会　企業支援部創業・経営支援課	上村　拓海
農林中央金庫青森支店　担い手金融班	三上　賛
黒石市　企画財政部税務課	須藤　友記子
中泊町　総合戦略課	駒目　渉
七戸町　企画調整課	澤田　健太郎
八戸市　都市整備部公園緑地課	曽我　敦也
今別町　産業建設課	吉﨑　心
大鰐町　企画観光課	貴田　さくら
鶴田町　農業振興課	山田　稔
十和田市　企画財政部政策財政課	角田　恭平
東北町　企画課	蒲出　直幸

② 令和７年度連携推進員定例ミーティングの実施状況

実施日	内　容
４月15日	○令和７年度受入式（連携推進員へ受入通知書の交付） ○第１回定例ミーティング ・連携推進員制度の概要、今年度の進め方 ・自己紹介（担当業務、抱負等）
５月23日	○第２回定例ミーティング テーマ：地域の課題解決とソーシャル・ビジネス① 講師：人文社会科学部　准教授　大倉 邦夫
６月20日	○第３回定例ミーティング テーマ：地域の課題解決とソーシャル・ビジネス② （青森の地域課題に対応する事業を企画立案してみよう（前編）） 講師：弘前大学大学院地域社会研究科　准教授　土井　良浩
７月18日	○第４回定例ミーティング テーマ：地域の課題解決とソーシャル・ビジネス③ （青森の地域課題に対応する事業を企画立案してみよう（後編）） 講師：弘前大学大学院地域社会研究科　准教授　土井　良浩
８月22日	○第５回定例ミーティング ・学外実地研修（詳細は下記を参照）
９月19日	○第６回定例ミーティング テーマ：地域と大学をつなぐコーディネーター！～産学官金連携プロジェクトを学ぶ～ 講師：研究・イノベーション推進機構　学術研究支援室　山科　則之

10月10日	○第７回定例ミーティング ・学外実地研修（詳細は下記を参照）
11月14日	○第８回定例ミーティング テーマ：ワクワクしないとはじまらない！ ～地域課題解決を楽しんでみるための手立て～ 講師：弘前大学人文社会科学部　准教授　古村 健太郎
12月19日	○第９回定例ミーティング テーマ ： 学生との交流会 （大学院生４名参加）
１月23日	○第10回定例ミーティング（第２回地方創生ネットワーク会議との併催） テーマ ： 「歩きたくなる“ウォーカブル”なまち」　について考える 講師：一般社団法人OSKINy　代表理事　長内　遼太郎
２月20日	○第11回定例ミーティング テーマ：「クマに遭ったらどうしよう」 ～クマについて考える～ 講師：青森県　環境エネルギー部　自然保護課　三浦　緋乃
３月17日	○第12回定例ミーティング テーマ：今年度の振り返りと、一人ひとりの今後に向けて 講師：弘前大学地域創生本部　准教授　館　栄
４月28日	○令和７年度成果報告会 ・活動成果報告 ・各機関個別の連携の成果報告

③ 令和７年度連携推進員学外実地研修

ⅰ）学外実地研修（１回目）：黒石市

令和７年８月22日（金）に開催した第5回定例ミーティングでは、黒石市のシェアスペース「Circleこみせ」において、講師にNPO法人Motion理事長の佐藤　裕　氏と、こみせ通りでシェアスペースやチャレンジスペースを提供している一級建築士の古川　正敏　氏をお迎えし、「黒石のファーストペンギンと語ろう！」と題して、学外研修を実施した。

当日は、「空き家ハント」（空き家の利活用を考える内覧イベント）の会場となっている旧内科医院を見学し、空き家の利活用の実情について共有した後、講師から「空き家ハント」「黒石こどもねぷたプロジェクト」などの取組について紹介があった。予算面などの課題を乗り越えながら取組を実現してきた経緯や、地域資源を活用し人と人をつなぐ仕組みづくりなど、地域課題の解決に向けた実践について紹介があった。


「空き家ハント」会場見学の様子

最後に、参加者で旧内科医院の活用についてアイデアを出し合い、小さな本屋やフォトスポット、癒しスペースなど、多様な活用案が提案された。現地見学、講話、意見交換を通じて、地域課題の解決に向けた視点を深める機会となった。

ⅱ）学外実地研修（２回目）：青森市

令和７年10月10日（金）に開催した第7回定例ミーティングでは、「津軽びいどろ」で知られる青森市の北洋硝子株式会社を訪問し、「職人が紡いだ四季を感じるハンドメイドガラスに触れる」と題して、学外研修を実施した。

工場見学では、1500度の炉と向き合う現場において、職人の高い技術や分業体制による製作工程を間近で学び、会社説明では、漁業用の浮き玉製造から始まり、時代の変化に対

応しながら製品分野を転換してきた経緯や、独自に開発した多様な色のレシピなど、同社の強みについて紹介があった。

津軽びいどろとのコラボ商品をテーマにしたグループワークでは、キャラクターとの組み合わせや伝統工芸の魅力を生かしたもの、地域性を表現した商品など、多彩なアイデアが飛び交った。工場見学や会社説明、意見交換を行うことで、ものづくりの現場への理解と地域資源の活用について考えを深めることができた。



グループワークの様子

④ 本学授業への参画

連携推進員が、令和７年６月23日（月）及び７月28日（月）に、「地域共創演習」（大学院地域共創科学研究科）の地域課題解決プレゼンテーションに出席し、大学院生と発表内容について意見交換を行った。

⑤ 令和７年度連携推進員成果報告会

令和８年４月28日、弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールにおいて、令和７年度連携推進員成果報告会を開催した。成果報告会には、弘前大学教職員、自治体・金融機関職員など約50名が参加した。

報告会では６名の連携推進員から、連携推進員制度の概要や定例ミーティングの実施内容、大学授業への参画などについて発表を行った。



連携推進員による発表の様子

発 表 内 容	発表者
･弘前大学「連携推進員」とは？	滝沢　崇幸（三戸町）
･定例ミーティング　年間プログラムについて	芦田　美海（板柳町）
･学外研修（黒石市）について	須藤　友記子（黒石市）
･学外研修（青森市）について	曽我　敦也（八戸市）
･第1回地方創生ネットワーク会議について	川田　寛実（藤崎町）
･第2回地方創生ネットワーク会議について	上村　拓海（青森県信用保証協会）

（２）弘大じょっぱり起業家塾

地域活性化に向けた人材育成の取組の一環として、学生や研究者、一般市民等を対象に、起業家による講演や事業計画の策定･演習等を通じて、柔軟な発想力や高い企画提案力を身につけることを狙いとした教育プログラム「弘大じょっぱり起業家塾」を開講している。

令和7年度は「青森を変えたい」「青森を良くしたい」という思いを持ち、起業や起業家マインドを持って行動したいと考えている人を対象とし、各々のビジネスプランを掲げる29人が受講した（基礎コース4回、実践コース5回の計9回）。このうち、修了要件を満たした7人を地域で活躍できる起業家マインドを持つ「じょっぱり起業家」として認定した。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/training/training02/



① プログラム内容

ｉ）基礎コース　地域ビジネス論（座学）＋先進事例研究（e-learning）

実施日	講義内容等	講師
６月26日	開講式 基調講演「地域資源を利用したアグリビジネスの可能性」	㈱寅福プラント 代表取締役社長　加藤　夢人
７月３日	第１回講義 「起業のための基礎」	㈱日本政策金融公庫弘前支店 融資課長　渋谷　祥
７月17日	第２回講義 「起業アイデアを事業計画に変換する」	青松事務所 創業コーディネーター　植松　宏真
８月28日	第３回講義 「地域課題を解決するスタートアップの創出」	ＪＲ東日本スタートアップ㈱ President＆CEO　柴田　裕
９月11日		合同会社美枝紙（弘前大学発ﾍﾞﾝﾁｬｰ） 代表　山科　則之



令和７年度開講式



受講の様子



受講の様子

ii）実践コース　ビジネスプラン作成演習

実施日	講義内容等	講　師
９月18日	実践コース　イントロダクション 第１回演習 アイデアの創出とコンセプトづくり	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授　森　樹男
９月25日	第２回演習 市場ポジションの確認	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授　石塚　哉史
10月９日	第３回演習 グループワーク（参加者同士でブラッシュアップ）	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授　森　樹男
10月16日	第４回演習 ターゲット顧客の設定	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授　石塚　哉史
11月６日	第５回演習 事業計画のブラッシュアップ	㈱日本政策金融公庫
12月11日	成果発表会 修了式	

② 成果発表会の開催

令和７年12月11日、弘前大学創立50周年記念会館において、弘大じょっぱり起業家塾2025の成果発表会を開催した。令和７年６月から11月にわたり基礎・実践コースを履修し、各々のビジネスプランを練り上げてきた受講生のうち事前審査を通過した５組が、これま

で学習してきた成果をもとに作成したビジネスプランを発表した。審査は「事業の理念・意義」「独創性・新規性」「実現可能性・事業収益性」「地域貢献性」「熱意」の５つの観点から行われ、受講生は限られた時間ながら、講師の指導を受けブラッシュアップを重ねた事業内容を審査員に対してアピールしました。審査員からはプランの実現に向けた多くの意見やアドバイスが相次いだ。

審査の結果、地域に密着したホームロボットのリペアサービス事業を提案した小山内忍さんのビジネスプラン「～あなたの暮らしをソフトにサポート～創業事業計画」が最優秀賞に輝いた。また、優秀賞には、古民家や空き家対策を視野に入れた農泊ビジネス・農業観光体験事業を提案した外川維慶さんと弘前大学大学院地域共創科学研究科２年の清藤百恵さん、観光客と地元の人をつなぐマッチアップサービス事業を発表した弘前実業高校３年の長内希乃花さんがそれぞれ選ばれた。



４．ボランティアセンター事業

東日本大震災によって甚大な被害を受けた地域へのボランティア活動を円滑に展開するために設立された「弘前大学人文学部ボランティアセンター」を発展的に改組し、ボランティア活動の推進及び支援を図るため、平成24年10月、全学組織として「弘前大学ボランティアセンター」が設置された。その後、令和２年４月の組織再編により弘前大学地域創生本部に統合され、現在は「弘前大学地域創生本部ボランティアセンター」として、学生が主体となり、各種ボランティア活動を実施している。

主な活動として、災害復興支援、学習支援、除雪、サイバー防犯など、多様な地域課題解決に資する取組を行っているほか、地域からの要請により学生ボランティアの派遣や、市民向けの講座・報告会なども実施している。



（弘前大学地域創生本部ボランティアセンター URL）https://huvc.net/

（１）ボランティア登録者数、ボランティア活動参画者数

① ボランティア登録者数（令和８年３月31日現在）

所属学部等	登録者数（人）							
	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	その他	計
人文社会科学部	26	25	24	49	－	－	－	124
教育学部	21	16	32	45	－	－	－	114
医学部医学科	48	17	21	12	22	5	－	125
医学部保健学科	34	105	10	60	－	－	－	209
医学部心理支援科学科	1	0	1	3	－	－	－	5

理工学部	25	15	20	34	－	－	－	94
農学生命科学部	11	9	20	21	－	－	－	61
その他（大学院生等）	－	－	－	－	－	－	41	41
計	166	187	128	224	22	5	41	773

② ボランティア活動参加者数（令和８年３月 31 日現在）

区　分	活動回数	ボランティア参加者数（人）						
		教職員	学生	一般	小計	講師等	児童	合計
学外からの周知要請	2回	－	5	113	118	22	－	140
学外からの派遣要請	73回	6	108	261	375	131	688	1,194
野田村支援交流活動	1回	1	6	10	17	1	－	18
学習支援活動	50回	32	270	0	302	62	307	671
オンライン学習支援	46回	46	100	1	147	52	185	384
除雪ボランティア	3回	5	18	0	23	0	0	23
その他（講座・報告会等）	5回	13	33	0	46	6	62	114
計	180回	103	540	385	1,028	274	1,242	2,544

（２）ボランティアセンターの活動

① 野田村支援交流活動

東日本大震災によって甚大な被害を受けた岩手県九戸郡野田村へ、震災直後から支援活動を開始したことを機として、現在も継続して支援交流活動を行っており、野田村での東日本大震災追悼行事に、本学の教員・学生が参加している。

今年度は、令和８年３月11日、野田村で開催された「野田村３.11ミーティング」及び「東日本大震災追悼行事」に、本学教員、学生、一般市民の計16名が参加した。

はじめに、野田村保健センター内復興展示室で「東日本大震災15年・野田村3.11ミーティング」が行われ、これまでの野田村復興に携わってきた各団体から活動で得られた知見や教訓について報告がなされ、参加者は改めて地域に根ざした支援の在り方や将来に向けた防災・減災の取組について理解を深めた。

ミーティング後は、海岸沿いに設置された大津波記念碑の前で行われる東日本大震災追悼行事に参列し、会場では、地震発生時刻の14時46分にサイレンが鳴り、参加者による黙とうが行われた。



追悼行事の様子

② 市民ボランティア講座・活動報告会

弘前市民や弘前大学の学生・教職員を対象として、様々なテーマによるボランティア講座を年に数回開催している。また、毎年冬にはボランティアセンターの活動を振り返り、市民の方々と来年度の活動や今後必要となる活動、地域課題について意見交換を行う活動報告会を開催している。

ⅰ）第１回市民ボランティア講座

令和７年10月16日、弘前大学人文社会科学部多目的ホールにおいて、『地域食堂（だれでも食堂）からはじまる地域づくり』をテーマとして開催し、子ども食堂の運営者や行政関係者、高校生、大学生など計35名が参加した。



基調講演中の川口氏

前半は、鳥取市役所 総務部　人権政策局　中央人権福祉センター　総括主査　川口　寿弘　氏が基調講演を行った。講演では、生活困窮者支援を目的として2015年に始まった子ども食堂が、現在は地域食堂として70を超える団体の支援を得て７市町に広がっていることや、魅力あるまちづくり及び効果的な支援の観点から官民連携プラットフォームを設立したことについて説明があった。

後半は、川口氏、一般社団法人みらいねっと弘前　代表理事の鹿内　葵　氏、コーディネーターの李ボランティアセンター長が参加し、会場からの質問に答える座談会を行った。参加者からは、子ども食堂の活動を近隣自治体へどのように広げていくべきかという質問が寄せられた。子ども食堂を実施する意義について根拠を示しながら活動に対する理解と支援を得ること、また定期的な話題作りを行ってマスコミに活動を取り上げてもらうことの重要性が、実際の経験をもとに講師から紹介された。

ⅱ）第２回市民ボランティア講座

令和７年11月16日、弘前大学文京町キャンパス内第一体育館において、「避難所運営訓練 in 弘前大学」を開催し、弘前市民・学生など計55名が参加した。

本講座は「官学民による多様性配慮の避難所運営訓練」をテーマに３部構成で行われ、第１部のオリエンテーションでは、(一社)男女共同参画地域みらいねっと　小山内　世喜子　代表理事から、令和６年能登半島地震の被災地で行った支援活動について、発災直後の命を守る段階から、避難所が日常生活の場となるフェーズへと移行する過程で、被災者のニーズは変化するため、一人ひとりの声に耳を傾け、震災前の生活に近づけるよう避難所の環境改善を行ったり、適切な支援につないだりして、いかに災害関連死を防ぐかに注力した経験が語られた。



小山内氏による講話

第２部では班別訓練、第３部では全体訓練が行われ、参加者からは、「多様な人がいるからこその配慮が必要だと実感した」「限られた資源で対応する難しさを感じた」など、熱意のこもった感想が聞かれた。

ⅲ）弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会

令和８年３月10日、弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会を弘前大学人文社会科学部４階多目的ホール及びオンライン配信のハイブリッド形式により開催し、弘前市民・学生など計25名が参加した。

前半は、貫牛　利一 チーム北リアス（野田村）現地事務所長から、「東日本大震災からの歩み・15年」と題した講演があった。東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県・北リアス地域（特に野田村）の復興を長期的に支援するために立ち上げられたボランティアネットワークであるチーム北リアス結成の経緯、15年間で行ってきた活動内容について説

明があり、貫牛氏からは、活動を通して生まれたつながりを今後も大切にしたいとのご発言があった。

後半は、当センターの学生ボランティアである人文社会科学部２年　清水　遥仁 さん、人文社会科学部２年　原田　秀憲 さん、人文社会科学部１年　小林　幸愛　さんから今年度の活動報告があり、野田村支援交流活動や学習支援事業、サイバー防犯ボランティアについて学生自身が感じたことなどが述べられた後、李ボランティアセンター長と貫牛氏、河村　信治 八戸工業高等専門学校嘱託教授、学生３名で意見交換を行った。



意見交換の様子

③ 学習支援活動（あっぷる～む）

生活困窮世帯の中学生・高校生を対象として、弘前大学大学会館及び弘前市内会場において、毎週水曜日（16:45～19:00）に対面式で学習支援を実施した。各回５名程度の中学生を対象に、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生５～10名が学習支援を行った。

④ オンライン学習支援（Zoomおんらin）

大学生と一緒に勉強がしてみたい小・中学生を主な対象として、Zoomを用いてオンライン上で一緒に勉強を行う「Zoomおんらin」を毎週水曜日（16:30～19:00）に実施した。各回、５名程度の小・中学生を対象に、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生２～３名が学習支援を行った。





⑤ 青森県警察サイバー防犯ボランティア

令和７年６月25日、弘前大学総合教育棟２階大会議室において、「弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式」が執り行われた。

委嘱を受けた６名の学生は、任期である令和８年３月31日までの間、商業施設での広報活動や小中学校での啓発活動への参加を通じて、インターネットやSNS、スマホアプリなどの危険性や被害にあった際の対処法などの広報活動やサイバー空間の安全を守るための取組を行った。



出席者集合写真

⑥ 除雪ボランティア

平成24年度から弘前市内の歩道、通学路等の除雪ボランティア活動を行っている。

令和７年度は、令和８年１月31日（土）・２月１日（日）の計２日、のべ20名の本学学生・教員が参加し、弘前大学近隣地域の歩道や通学路等の除雪を行った。弘前市では１月として観測史上最大の積雪量を観測するなど大雪となり、除雪実施箇所においても雪が積み重なっており歩行が困難な状況であったが、参加者それぞれ

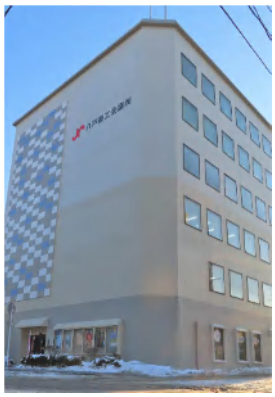


除雪中の様子

が熱心に活動に取り組み、終了時には歩道を確保することができた。

Ⅲ．サテライト

１．八戸サテライト



八戸地域において、本学の分室としての機能を果たし、本学と地域社会との密接な連携を図ることを目的として、平成14年６月、八戸地域地場産業振興センター４階に「弘前大学八戸サテライト」を設置した。平成19年11月には、八戸市庁舎に隣接する八戸商工会館１階に移転している。八戸サテライトには地域連携コーディネーター２人、事務補佐員１人が常駐し、産学官連携に関する相談、公開講座等の開催、広報活動（入試情報等）など、地域における弘前大学の窓口機能を担っている。

［概要］



住　　所：八戸市堀端町２の３　八戸商工会館１階
電話番号：０１７８－４３－１６００
E-mail：hachisate@hirosaki-u.ac.jp
URL：https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/satellite/hachinohe/

［公開講座の実施］

ｉ）令和７年度「弘前大学学生採用セミナー2025」

令和７年９月17日（水）、八戸サテライトにおいて、令和７年度「弘前大学学生採用セミナー2025」を開催した。地元企業の採用力向上を目的として、弘前大学生の就職観や就職環境に関する最新情報を提供することで、採用活動の戦略化と本学との関係構築の深化を目指し、本学　人文社会科学部　髙島　克史　准教授、学務部学生課　就職支援室　木村　洋　室長、株式会社アンカリンク　安部　真之介　代表取締役、株式会社帝国データバンク八戸支店　小原　圭介　支店長　４名の講師による講演が行われた。対象者の本学生採用実績又は採用意向のある事業所の人事・採用担当者27名が受講した。

ii）令和７年度弘前大学八戸サテライト歴史セミナー

「お墓と墓石の歴史」



令和７年 12 月 20 日（土）、八戸サテライトにおいて、公益財団法人シルバーリハビリテーション協会との共催、八戸市教育委員会、八戸市（八戸ブックセンター）、八戸商工会議所の後援のもと令和７年度　弘前大学八戸サテライト歴史セミナー「お墓と墓石の歴史」セミナーを開催した。弘前大学地域創生本部の地域連携強化策の一環として、県南地域の中小企業や各種団体・地域住民への貢献を目的に、大学の保有する知見の提供と啓蒙を行う目的として本学　人文社会科学部　関根 達人　教授より「お墓と墓石の歴史」と題して講演が行われた。八戸市内外から 10 代から 60 代の幅広い年齢層の一般市民 23 名が参加し、有意義なセミナーとなった。

ⅲ）「弘前大学学生採用セミナー2026 in 十和田」

令和８年３月19日（木）、青い森信用金庫十和田営業部３階会議室において、「弘前大学学生採用セミナー2026 in 十和田」を開催した。地域企業の採用力強化を目的とし、本学人文社会科学部　髙島　克史　准教授より「文系学生の就職観・就職環境に関する最新情報」、学務部就職支援室　板垣　学　係長より「大学キャリアセンターの取組と学生の傾向」、株式会社アンカリンク　安部　真之介　代表取締役より「就職サイトを運営してわかったこと」、株式会社帝国データバンク八戸支店　小原　圭介　支店長より「採用に成功している企業の条件」と題して情報提供が行われた。十和田市内外の企業から採用担当者18名が参加し、今後の採用活動に役立つものとなった。

２．青森サテライト



青森地域において、本学の分室としての機能を果たし、本学と地域社会との密接な連携を図ることを目的として、令和４年10月、青森市柳川庁舎１階に「弘前大学青森サテライト」を設置した。青森サテライトには地域連携コーディネーター１人が常駐し、産学官連携に関する相談や広報活動（入試情報等）など、地域における弘前大学の窓口機能を担っている。

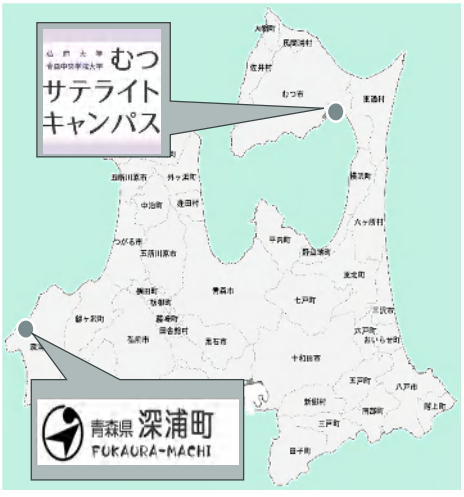


［概要］

住　　所：青森市柳川２－１－１　青森市柳川庁舎１階
電話番号：０１７－７６６－３５００
E-mail：aosate@hirosaki-u.ac.jp
URL：https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/satellite/aomori/

３．サテライトキャンパス

県内自治体との連携協定に基づき、自治体が事務局を担い、地域の活性化に資する事業を展開することを目的として、まち全体をキャンパスと見立てた大学固有の施設を有しないバーチャル型のサテライトキャンパスを設置している。むつ市には青森中央学院大学と共同で「むつサテライトキャンパス」を平成27年３月に開設、深浦町には「深浦エコサテライトキャンパス」を平成28年５月に開設している。



各サテライトキャンパスにおいて、公開講座を実施するとともに、「滞在型学習支援事業」として地域に滞在して現地住民と交流を図りつつ、地域の発展に取り組む教員・学生の活動費を支援している。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/satellite/mutsu-fukaura/

（１）むつサテライトキャンパスにおける事業

① むつサテライトキャンパス公開講座

実施日	内容	参加者
７月13日	【ジオパーク講座】川内川渓谷自然観察会 会場：川内川渓谷（むつ市） 講師：農学生命科学部　教授　中村　剛之	10人
７月25日	【食育健康講座】低カロリー高タンパクで有名な鶏肉。でも、知っていますか。食べる部位によって期待できる効果が変わるんです！ 会場：海老川コミュニティセンター集会室（むつ市） 講師：弘前大学名誉教授　加藤　陽治 料理研究家　坂本　謙二	24人
８月22日	【食育健康講座】非常食としても有用な高野豆腐。大事な栄養素もたっぷり詰まっています。思わぬ健康効果が期待できるかも…！ 会場：むつ来さまい館イベントホールB（むつ市） 講師：弘前大学農学生命科学部　准教授　前多　隼人 料理研究家　坂本　謙二	21人
８月31日	【ジオパーク講座】恐山火山　カルデラ形成後の火山活動を探る 会場：恐山（むつ市） 講師：弘前大学大学院理工学研究科　教授　折橋　裕二	22人
９月26日	【食育健康講座】秋には特に恋しくなるイモ類。栄養素を知ることで、もっともっとイモが愛おしくなること間違いなし。 会場：むつ来さまい館イベントホールB（むつ市） 講師：弘前大学名誉教授　加藤　陽治 料理研究家　坂本　謙二	18人
10月17日	【食育健康講座】秋の味覚！キノコ類と健康機能性 会場：海老川コミュニティセンター集会室（むつ市） 講師：弘前大学農学生命科学部　准教授　前多　隼人 料理研究家　坂本　謙二	16人

② 滞在型学習支援事業の対象となった取組

本事業は、「むつサテライトキャンパス」において、恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、滞在して地域と交流しながら学び、また、地域課題へ対応し、地域社会の発展に取り組む本学教職員・学生に対し、現地における活動が円滑に行われるようサテライトキャンパスの利用及び学術活動を一体的に支援することを目的として、実施経費及び滞在時費用（宿泊費）の一部を助成するもの。

令和７年度は、５件の滞在型学習の実施経費及び延べ163人の宿泊費を助成した。

実施日	内　容	参加者
９月３日 ～９月４日	取 組 名：子どもの居場所「まるっと」での学習支援事業 担当教員：弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長　李　永俊	教員　１人 学生　３人
９月11日 ～９月13日	取 組 名：教育科学演習　フィールドワークin むつ市2025 担当教員：弘前大学教育学部　准教授　越村　康英	教員　５人 学生　21人
９月28日 ～９月30日	取 組 名：下北半島（下北ジオパーク）を対象とした野外実習 担当教員：弘前大学理工学研究科　教授　折橋　裕二	教員　５人 学生　12人
10月25日 ～10月26日	取 組 名：むつ下北未来創生キャンパス祭 担当教員：弘前大学理事（社会連携担当）　橋本　恭男	教員　２人 学生　62人
３月24日 ～３月25日	取 組 名：国際園芸農学科むつ市内農業関連施設視察研修 担当教員：農学生命科学部　教授　石塚　哉史	教員　６人 学生　10人

※ 滞在型学習支援事業（むつ市）による補助
・実施経費に対する補助　　上限30,000円/件
・宿泊費に対する補助　　3,000円/泊・人
・自治体所有の公用バス等による送迎及び現地での移動支援

③ むつ下北未来創生キャンパス祭

むつ市内にキャンパスを有する青森大学、青森明の星短期大学及び八戸学院大学と、特定の建物を持たずにむつ下北地域の全フィールドをむつサテライトキャンパスとして展開する弘前大学及び青森中央学院大学が、むつ下北地域の若者による賑わい創出を目的に、むつ市と共同で、令和７年10月26日、下北文化会館（むつ市）において「第４回むつ下北未来創生キャンパス祭」を開催した。


ステージ発表

当日は、弘前大学の「ストリートダンスサークルA.C.T」から24人、「人文社会科学部地域行動コース」から19人、「ダイザープロダクション」から３人、「大道芸サークル　Mocha」から８人、「ポケモンサークル　p.o.k.e」から9人、他の４大学からも11団体が参加し、総勢150人ほどの学生がステージパフォーマンスや展示・体験ブースにおいて、むつ下北地域の住民と交流し、延べ約3,000人が来場し、賑わいが創出された。


パネル展示発表

（２）深浦エコサテライトキャンパスにおける事業

① 滞在型学習支援事業の対象となった取組

本事業は、「深浦エコサテライトキャンパス」において、恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、滞在して地域と交流しながら学び、また、地域課題へ対応し、地域社会の発展に取り組む本学教職員・学生に対し、現地における活動が円滑に行われるようサテライトキャンパスの利用及び学術活動を一体的に支援することを目的として、実施経費及び滞在時費用（宿泊費）の一部を助成するもの。

令和７年度は、３件の滞在型学習の実施経費及び延べ78人の宿泊費を助成した。

実施日	内　容	参加者
６月26日・ 11月20日 ～11月22日	取 組 名：空き家分布状況と集落史との関連についての フィールドワーク 担当教員：弘前大学人文社会科学部　助教　松井　歩	教員　２人 学生　32人
９月29日 ～９月30日	取 組 名：深浦町の財政研究とCOVID-19後の深浦３セク企業の 経営状況調査及びゼミ生の会計スキルの向上合宿 担当教員：弘前大学人文社会科学部　教授　加藤　惠吉	教員　１人 学生　４人
11月15日 ～11月16日	取 組 名：「楽しく運動能力up！ふかうらスポーツ教室」 担当教員：弘前大学教育学部　教授　上野　秀人	教員　１人 学生　７人

※ 滞在型学習支援事業（深浦町）による補助
・実施経費に対する補助　　上限30,000円/件
・宿泊費に対する補助　　2,500円/泊・人
・自治体所有の公用バス等による送迎及び現地での移動支援

Ⅳ．各学部・研究科等における公開講座等の実施状況

１．実施件数・参加人数

令和７年度

実施部局等	実施件数	延べ参加人数
（１）人文社会科学部	6 件	342 人
（２）教育学部	19 件	1,617 人
（３）農学生命科学部	1 件	30 人
（４）大学院医学研究科	6 件	388 人
（５）大学院保健学研究科	6 件	635 人
（６）大学院理工学研究科	15 件	610 人
（７）大学院地域社会研究科	1 件	17 人
（８）大学院地域共創科学研究科	1 件	47 人
（９）医学部附属病院	11 件	1,114 人
(10) 被ばく医療総合研究所 被ばく医療連携推進機構	7 件	586 人
(11) 地域戦略研究所	1 件	25 人
(12) 国際連携本部	1 件	33 人
(13) 地域創生本部	9 件	479 人
(14) 教育推進機構	6 件	371 人
(15) 研究・イノベーション推進機構	3 件	524 人
(16) 健康未来イノベーション研究機構	7 件	6,930 人
(17) 男女共同参画推進室	1 件	60 人
(18) 大学コンソーシアム学都ひろさき	1 件	170 人
計	93 件	13,978 人

２．公開講座等一覧

（１）人文社会科学部

地域未来創生塾@中央公民館

開催日	① 令和７年10月１日　② 令和７年10月15日　③ 令和７年10月29日 ④ 令和７年11月12日　⑤ 令和７年11月26日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 【共催】弘前市教育委員会（中央公民館） 【後援】弘前市、東奥日報社、陸奥新報社
会場・対象・参加人数	【会場】弘前中央公民館 【対象】弘前大学生、教職員、弘前市および近隣にお住まいの市民一般、高校生 【参加人数】41人
講　師	① 弘前大学人文社会科学部　助教　諸隈　夕子 ② 弘前大学人文社会科学部　准教授　髙島　克史 ③ 弘前大学人文社会科学部　准教授　山田　敦士 ④ 弘前大学人文社会科学部　准教授　近藤　史 ⑤ 弘前大学人文社会科学部　助教　潘　鋭
内　容	本事業は、「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全５回の講座を開催した。具体的には、人口減少にともなう様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策を模索するために、弘前大学人文社会科学部の教員が、ワークショップ形式で学びを深めた。

国際公開講座2025「身近なところからの人文学」

開催日	令和７年11月３日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学人文社会科学部 【共催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生 【参加人数】30人
講　師	弘前大学人文社会科学部　助教　髙内　悠貴 弘前大学人文社会科学部　助教　片岡　美有季 弘前大学人文社会科学部　助教　ディオ・ロドルフ・シリル
内　容	国際公開講座「日本を知り、世界を知る」は、人文社会科学部の、特に人文学に関する教員の研究を、地域の方々にわかりやすく伝えることを目的として行われ、昨年度に引き続き、本年度も地域未来創生センターとの共催の形で実施した。

法廷の裏側－裁判員裁判における評議・評議室－

開催日	令和７年11月15日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部棟４階多目的ホール 【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生 【参加人数】34人
講　師	宇都宮地方裁判所　古玉　正紀 東京地方裁判所　寺尾　亮

	弘前大学　　平野　潔 専修大学　　飯　考行
内　容	裁判員裁判において、評議は、事実認定、法令の適用、刑の量定を行う、法廷に劣らず重要な場となっている。しかし、具体的にどのように進められているかは、必ずしも分かっていない。また、裁判員となってから法廷に臨むまで、休廷中、判決言い渡し後など、裁判官・裁判員が評議室でどのように過ごしているかも、一般にはあまり知られていない。本シンポジウムでは、裁判官が評議をどのように進めているか、どのように工夫しているかを中心に、評議室の様子を明らかにした。

「消費者フォーラム in HIROSAKI」

開催日	令和８年１月24日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学人文社会科学部、弘前大学教育学部、青森県消費者協会
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 ２階 岩木ホール 【対象】市民一般 【参加人数】37人
講　師	合同会社美枝紙代表社員/弘前大学研究・イノベーション推進機構学術研究支援室 山科　則之
内　容	消費者フォーラム in HIROSAKIは弘前大学の消費者教育推進事業の一環として、2015年度以来毎年開催している。弘前大学の教職員や学生、青森県内の大学生・高校生・中学生が、消費者問題に関する調査研究の成果を学内や地域に発表する場とした。

コメ価格急騰と自然栽培経営について

開催日	令和８年２月８日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象・参加人数	【会場】ZOOM開催 【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生 【参加人数】120人
講　師	株式会社ナチュラル･ハーモニー　代表　　河名　秀郎 有限会社サン・スマイル　代表取締役　　松浦　智紀 NPO法人岡山県自然栽培実行委員会　理事長　髙橋　啓一
内　容	近年のコメ価格急騰は自然栽培の関係者（生産者・流通業者・消費者）にさまざまな影響を及ぼしている。弘前大学人文社会科学部自然栽培経営研究Gでは、昨今のコメ価格急騰をテーマに３名の経営者をお招きし、自然栽培コメの生産・流通・消費についてお話しいただくとともに今後について討論した。

国立大学法人17大学人文系学部　情報・意見交換会

開催日	令和８年２月20日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学人文社会科学部
会場・対象・参加人数	【会場】ZOOM開催 【対象】国立大学法人17大学人文学系学部長会議構成学部の教員・職員 【参加人数】80人

講　師	高知大学　　岩佐　光広、赤池　慎吾 鹿児島大学　小栗　有子 島根大学　　関　耕平 琉球大学　　本村　真 弘前大学　　原　克昭
内　容	地域課題の解決に向けて、人文学・社会科学研究を活用した多様な実践が進んでいる。この情報・意見交換会では、大学・地域をこえて取組事例を共有し、各大学の活動を継続・発展させることをめざします。具体的な工夫や課題について情報共有と議論を行った。

（2）教育学部

弘前大学教育学部附属四校園公開研究会

開催日	令和７年11月15日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部附属中学校、小学校、特別支援学校、幼稚園
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学附属小学校、附属中学校対面とライブ配信、テレビ会議によるハイブリッド型 【対象】教育関係者など 【参加人数】387人（対面参加者）
講　師	広島都市学園大学子ども教育学部　教授　竹林地　毅
内　容	「自ら考え 自律的に行動する子の育成」を全体研究テーマとした合同公開研究会を開催した。今年度は対面で実施し、後日オンデマンド配信（限定公開）を行った。今年度は５回目となり、社会、外国語活動・英語、体育・保健体育の各教科の公開授業や研究協議会を行った。また、広島都市学園大学子ども教育学部教授　竹林地 毅　氏を講師に招き、「自分らしく生きていく児童生徒を育む教育課程と授業」をテーマとした講演会を実施した。

教員研修講座「声でいざなう日本伝統音楽：華麗なる能の世界へ」

開催日	① 令和７年11月15日～11月16日　　② 令和８年１月31日～２月１日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部音楽学研究室
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学教育学部音楽ホール（文京キャンパス） 【対象】中高音楽科、あるいは小学校、特別支援ほかの教員（免許状取得見込者含む）能に関心のある学生、一般市民 【参加人数】11人
講　師	観世流能楽師　　篠崎　珠樹 弘前大学教育学部音楽学研究室　朝山　奈津子
内　容	中学校音楽科で取り扱う能の教材研究のため、仕舞における身体の使い方や所作の基本、謡の発声法を実習した。

デジタル学習基盤を前提とした子どもの学びの姿を探る

開催日	令和７年７月31日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター

会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学教育学部棟２階 大教室（文京町キャンパス） 【対象】教育関係者（大学生・大学院生を含む） 【参加人数】97人
講　師	八戸市立長者小学校　校長　石井　　一二三
内　容	子どもの学びにおけるデジタル学習基盤（ICT端末・ネット環境など）の活用や、青森県の「GIGAスクール構想」第二段階に向けた教育のあり方について考える講演会を実施した。

ひろさきで学ぶ芸術歌曲の技と心 2025

開催日	令和７年11月３日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部　声楽研究室、ピアノ研究室 【共催】弘前大学教育学部附属国際音楽センター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】一般（制限なし） 【参加人数】147人
講　師	弘前大学教育学部　教授　ソプラノ・リリコ　杉原　かおり 弘前大学教育学部　助教　ピアノ　小田　直弥 東京学芸大学　准教授　バリトン　石崎　秀和 昭和音楽大学　准教授　バス　森田　学
内　容	弘前大学教育学部声楽研究室・ピアノ研究室主催により、声楽に関する講話、演奏会および公開レッスンを開催した。講師には、本学教員である杉原かおり 教授（ソプラノ・リリコ）、小田　直弥 助教（ピアノ）のほか、石崎　秀和　氏（東京学芸大学准教授・バリトン）、森田　学　氏（昭和音楽大学准教授・バス）を招聘し、歌唱における「技」と「心」をテーマに実践的かつ専門的な指導と演奏を行った。昨年度は定員に達するなど好評を博しており、本年度は弘前地域で活動する書家およびこぎん刺し作家の協力も得て、地域文化との連携を図りながら、より充実した内容で実施した。本事業は広く一般に公開し、多くの来場者に音楽芸術に触れる機会を提供した。

若手教師のためのリフレクション第一歩2025

開催日	① 令和７年８月９日　② 令和８年３月27日（中止）
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学教育学部 【対象】校種問わず若手教師 【参加人数】３人
講　師	弘前大学教育学部　教授　福島　裕敏 弘前大学教育学部　教授　宮﨑　充治 弘前大学教育学部　助教　吉崎　聡子 弘前大学教育学部　助教　若松　大輔
内　容	新任・若手教師を対象とした研修プログラムで、教師としての実践を振り返り（リフレクション）、教育現場での指導力や授業の改善力を高めることを目的とした研修で、「省察（振り返り）」という観点から、教育実践を見つめ直し、教師としての資質・力量を向上させる機会を提供した。

道徳科授業 UPGRADE プログラム

開催日	① 令和７年８月７日　② 令和７年12月26日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象・参加人数	【会場】八戸市総合教育センター 【対象】中学校教諭普通免許状を有しており、中学校教諭二種免許状（技術）を取得しようとする国・公・私立学校の教諭又は講師 【参加人数】14人
講　師	弘前大学教育学部長　福島　裕敏 弘前大学教育学部附属中学校　教諭　佐々木　篤史
内　容	令和４年７月１日より教員免許更新制が発展的に解消されたことを受け、教育学部ではその後継となる『新たな教師の学び』として、教員のための研修活動を新たに企画し、道徳科授業に関する研修プログラムを実施した。

森と創るサステナブルな青森―ウルシがつなぐSTEAM教育の可能性―

開催日	令和７年８月９日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学文京町キャンパス教育学部棟１階中教室 【対象】一般（制限なし） 【参加人数】32人
講　師	弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター　助教　髙橋　憲人 きりんの里　事務局長/利用者　小林　真弓 ReNeW津軽　代表　小林　慎之介
内　容	ウルシの植栽活動を通じて、持続可能な青森県の未来を多様な視点から考える教育セミナーを実施した。STEAM（科学・技術・工学・芸術・数学）の統合的アプローチで、地域資源と教育のつながりを探る内容で行った。

「虹の上をとんだ船の「それから」の軌跡」

開催日	① 令和７年９月27日　② 令和７年12月13日　③ 令和８年２月21日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター 【後援】成城大学グローカル研究センター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学文京町キャンパス 創立50周年記念会館２階　岩木ホール 弘前大学文京町キャンパス　教育学部校舎　１階大教室 【対象】一般（制限なし） 【参加人数】25人
講　師	町田市立国際版画美術館　学芸員/ 成城大学グローカル研究センター　客員研究員　町村　悠香 和光大学表現学部　准教授　角尾　宣信 実践女子大学生活科学部　講師　笠原　良太 成城大学グローカル研究センター　研究員　高原　太一 弘前大学教育学部　教授　福島　裕敏 公益財団法人鷹揚郷　理事長　鈴木　唯司 元つがる市立車力小学校　校長　藤田　敏幸

	平川市立金田小学校　　教諭　　井上　則秋 八戸市公民館館長/企画事業アドバイザー　　柾谷　伸夫 八戸市美術館　学芸員　　髙橋　麻衣 五所川原市教育委員会社会教育課　主査　　江戸　邦之 青森県立美術館　学芸員　　奥脇　嵩大 那須歴史探報館　学芸員　　作間　亮哉
内　容	教育版画の歴史的・文化的意義を探る連続セミナーシリーズで、高度経済成長期から現代まで、版画作品と社会の関係をテーマに複数回にわたって講演・討議を行った。

GIGAスクール構想 2ndステージを探る

開催日	令和７年11月12日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター 【後援】五所川原市教育委員会、つがる市教育委員会、鰺ヶ沢町教育委員会、深浦町教育委員会、柳町教育委員会、鶴田町教育委員会、中泊町教育委員会
会場・対象・参加人数	【会場】つがる市生涯学習交流センター 【対象】一般（制限なし） 【参加人数】40人
講　師	八戸市立長者小学校　校長　石井　一二三 弘前大学教育学部　　講師　森本　洋介
内　容	GIGAスクール構想 2ndステージについて考える講演会を実施した。

グロウアップ講座2025

開催日	① 令和７年８月７日　　② 令和７年11月６日
主催・共催・後援など	【主催】NITS弘前大学センター 【共催】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学オープンイノベーションプラザ 【対象】公立及び私立学校教員、附属学校園教員、教職大学院現職教員院生 【参加人数】36人
講　師	弘前大学教職大学院　助教　若松　大輔 弘前大学教職大学院　教授　中野　博之 弘前大学教職大学院　教授　菊地　一文　ほか教職大学院教員
内　容	最新の教育評価の知識をアップデートして、子どもたちの様々な学びや育ちを見取るためのパフォーマンス課題やルーブリックの作成と実践を踏まえた検討会を行った。

アドバンス講座2025

開催日	① 令和７年７月31日　　② 令和７年９月16日
主催・共催・後援など	【主催】NITS弘前大学センター 【共催】青森県教育委員会
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】公立及び私立学校教員、附属学校園教員、教職大学院現職教員院生 【参加人数】44人

講　師	弘前大学教職大学院　助教　若松　大輔 弘前大学教職大学院　教授　中野　博之 弘前大学教職大学院　教授　菊地　一文　ほか教職大学院教員
内　容	参加教員各自が、「勤務校を深く知るための質的調査」をとおした「勤務校の現状と課題」の把握により、ミドルリーダーとしての役割を再考するとともに「学校を活性化する実践」を考えるプロセスをサポートした。

令和７年度指導主事研修会

開催日	令和７年６月28日
主催・共催・後援など	【主催】NITS弘前大学センター 【共催】青森県教育委員会
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学教育学部２階大教室、八戸ユートリー５階視聴覚室、オンライン会場 【対象】青森県及び全国の指導主事等 【参加人数】83人
講　師	弘前大学教職大学院　　教授　　中野　博之 独立行政法人教職員支援機構　審議役　島谷　千春 青森県立八戸高等学校　校長　　嵯峨　弘章
内　容	指導主事を対象とし、「学校現場にどう助言し関わるか」についての講義・演習、指導主事経験者による講演として指導主事としての役割や可能性について語り合う協議、NITSの教授による講義等で構成した午前・午後にわたる研修会で、２会場をオンラインで結ぶとともにオンライン会場も設定した。

令和７年度充実期研修講座

開催日	令和７年７月29日～11月27日
主催・共催・後援など	【主催】NITS弘前大学センター、青森県教育委員会 【後援】青森県小学校長会、青森県中学校長会、青森県高等学校長協会、 青森県特別支援学校校長会
会場・対象・参加人数	【会場】八戸ユートリー、八戸市総合教育センター、オンライン 【対象】学校長の推薦を得た主として30代後半～40代の県内学校教員（教諭・養護教諭等） 【参加人数】20人
講　師	教職大学院教員
内　容	青森県教育職員研修計画の研修体系に位置付けられた講座で、育成指標において充実期教員に求められる「マネジメント力」及び「指導力」の伸長を図ることを目的としている。講座のワークショップを通して各自が構想したアクション・プランを、実際に勤務校においてを実践する過程を、教職大学院教員のコンサルテーションでサポートする。多忙な充実期の教員に配慮して、オンラインと集合研修（２日）を組み合わせて実施した。

NITS弘前大学センター「インクルーシブな学びの場を考えるセミナー2025」

開催日	令和７年９月27日
主催・共催・後援など	【主催】NITS弘前大学センター 【後援】青森県教育委員会、弘前市教育委員会

会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学教育学部２階大教室オンライン会場 【対象】学校関係者（教員、保護者、子ども本人）、関係機関職員（福祉、行政、NPO等）、市民、大学生・大学院生等 【参加人数】137人
講　師	加賀市教育委員会　事務局長　　小林　湧 青森県立北斗高等学校　　石田　愛笑（高校生） 弘前大学教育学部附属小学校　教諭　赤垣　由希子 弘前市立第三大成小学校　　校長　土岐　賢悟
内　容	子どもの側に立って授業や学校を捉え直し、対話をとおしてそのあり方について検討することで、今後のインクルーシブな学びの場の創出に資するためのセミナーを実施した。

令和７年度　NITS・弘前大学教職大学院コラボ研修
「子どもにとっても教員にとっても『安全基地』となる学校づくり」

開催日	令和８年１月31日
主催・共催・後援など	【共催】弘前大学教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）院生企画部、独立行政法人教職員支援機構（NITS） 【後援】青森県教育委員会
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学教育学部２階大教室、オンライン会場 【対象】教員など教育関係者、学生等 【参加人数】281人
講　師	杉並区立済美養護学校　主任教諭　　川上　康則 弘前市立第三大成小学校　校長　　土岐　賢悟 弘前大学教職大学院ミドルリーダー養成コース１年　葛西　健介
内　容	講演者の杉並区立済美養護学校・川上康則主任教諭と、弘前市立第三大成小学校の土岐賢悟校長を迎え、弘前大学教職大学院生と共にパネルディスカッションを行い、「子どもにとっても教員にとっても『安全基地』となる学校づくり」を参加者とともに考える研修講座を実施した。

令和７年度NITS弘前大学センター公開セミナー

開催日	①② 令和８年２月７日　　③④ 令和８年２月14日
主催・共催・後援など	【主催】NITS弘前大学センター 【共催】青森県教育委員会
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学教育学部２階大教室、オンライン会場 【対象】教員など教育関係者 【参加人数】217人
講　師	① 東奥義塾中学校/高等学校　塾長　井上　嘉名芽 ② 弘前大学教育学部　准教授　　蒔田　純 ③ 京都芸術大学　　准教授　　次橋　秀樹 ④ 弘前大学教職大学院　教授　　中野　博之
内　容	最新の教育課題を幅広く扱うセミナーで、毎回、テーマに合わせた専門家を講師としている。① 生成AIと創る、これからの授業デザイン、② 政治をいかに教えるか？～知識と行動をつなぐ主権者教育、③ いま、高校入試を考え、議論するための視点、④ 教育改革の中での授業の改善をテーマに、第１回～第３回はオンライン開催、第４回はオンライン併用のハイフレックス開催とした。

大学の数学

開催日	① 令和８年３月21日　② 令和８年３月28日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部数学教育講座
会場・対象・参加人数	【会場】① ユートリー５階視聴覚室　② 弘前大学教育学部１階大教室 【対象】高校生（青森、秋田、岩手、道南） 【参加人数】18人
講　師	弘前大学教育学部　講師　吉川　和宏 弘前大学教育学部　准教授　山本　稔
内　容	弘前大学教育学部数学教育講座教員による、数学好き高校生のための大学数学の講義を実施した。

体育科の授業づくり「ボールゲーム」を考えよう
～「戦術学習」とゲームの「簡易化」とは？～

開催日	令和７年７月15日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部保健体育講座
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学 【対象】小学校教員（体育担当者）、中学校・高等学校保健体育教員、特別支援学校体育担当教員、その他（ボールゲーム指導に興味がある方） 【参加人数】７人
講　師	弘前大学教育学部　准教授　益川　満治
内　容	弘前大学教育学部が実施する教員向け研修で、体育科におけるボールゲームの授業づくりをテーマに、「戦術学習」と「ゲームの簡易化」を軸とした指導方法を学ぶプログラム。講義と実技（演習）を通して、効果的な授業設計や学習者の理解を深める指導法を考える講座を実施した。

サイエンス×アート・プログラム 教科等横断的な学習の探究

開催日	① 令和７年８月３日　② 令和７年12月13日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学教育学部１階中教室 【対象】一般（制限なし） 【参加人数】18人
講　師	弘前大学教育学部　准教授　出　佳奈子 弘前大学教育学部　講師　大谷　伸治 弘前大学教育学部　准教授　島田　透 弘前大学教育学部　助教　谷本　憂太郎 弘前大学教育学部　准教授　山本　稔
内　容	近年その必要性が注目されている「教科等横断的な学習」に関し、理科（化学）・社会（日本史）・美術（美術史）を専門とする大学教員による「教科等横断的な学習」に関するセミナーを実施した。

（3）農学生命科学部

令和７年度　弘前大学農学生命科学部市民公開講座

開催日	令和７年10月19日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学農学生命科学部
会場・対象・参加人数	【会場】農学生命科学部433講義室 【対象】一般、教職員、学生等 【参加人数】30人
講　師	農学生命科学部地域環境工学科　教授　藤﨑　浩幸
内　容	近年の日本では人口減少社会の突入による消滅可能性自治体などが注目されている。一方、農山村においては高度成長期から廃村（集落消滅）が続いている。本講座では廃村の様相を説明した後に、農山村の存続方策として、集落再編成や産業育成そして都市住民の農村定住などについて説明した。

（4）大学院医学研究科

令和７年度弘前大学大学院医学研究科公開講座　「アルツハイマー病　新時代」

開催日	令和７年８月29日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学大学院医学研究科 【共催】公益社団法人青森医学振興会
会場・対象・参加人数	【会場】医学研究科講義棟 【対象】一般市民の方、学生、教職員 【参加人数】104人
講　師	① 弘前大学医学部附属病院　　脳神経内科　講師　　西嶌　春生 ② 弘前大学大学院医学研究科　脳神経内科学講座　教授　　冨山　誠彦 ③ 弘前大学大学院医学研究科　神経精神医学講座　准教授　冨田　哲
内　容	地域に貢献することを目的として、一般市民の方を対象とする公開講座を実施した。 ① 認知症って何？軽度認知障害って何？ ② アルツハイマー病になったら終わりの時代の終わり ③ 認知症になって困ることは何？困らないためにできることとは？

令和７年度弘前大学大学院医学研究科　健康・医療講演会
「知っていますか？ロコモティブシンドローム」

開催日	令和７年11月22日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学大学院医学研究科 【共催】八戸市立市民病院、公益社団法人青森医学振興会
会場・対象・参加人数	【会場】八戸市立市民病院　講堂 【対象】一般市民の方 【参加人数】55人
講　師	① 八戸市立市民病院　整形外科　部長(副院長)　沼沢　拓也 ② 弘前大学大学院医学研究科　むつ下北地域医療学講座　講師　佐々木　英嗣

内　容	地域に貢献することを目的として、八戸市立市民病院の協力のもと、一般市民の方を対象とする講演会を実施した。 ① 骨粗鬆症とサルコペニア ② 変形性膝関節症とロコモティブシンドローム

世界糖尿病デー IN 弘前　市民公開講座

開催日	令和７年11月15日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座 【後援】弘前市、（社）弘前市医師会、（社）青森県医師会、青森県糖尿病協会（JADEC青森）
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対象】市民一般、弘前市内・近隣の糖尿病患者及びその家族、医療従事者 【参加人数】60人
講　師	弘前大学大学院医学研究科科内分泌代謝内科学講座　藤田　征弘、柳町　剛司 弘前大学医学部附属病院　栄養管理部　石田　もえこ 弘前市役所　健康こども部国保年金課　三上　美保
内　容	糖尿病に関する正しい知識を知ってもらうために、世界糖尿病デーである11月14日に合わせて、市民向けの公開講座を開催した。また、健康相談を行ったり、体脂肪測定、血糖測定、ベジチェック、塩分摂取チェックのコーナーを設けて、実際に体験して頂いた。

第18回青森臨床糖尿病研究会/第60回青森糖尿病週間学術講演会

開催日	令和７年９月28日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座 【共催】（講演会内のランチョンセミナーの共済）バイエル株式会社
会場・対象・参加人数	【会場】八戸市立市民病院　講堂 【対象】一般市民の方 【参加人数】80人
講　師	シンポジウム おがわよしじ内科　小川　吉司 弘前大学内分泌代謝内科学講座　松橋　有紀、田辺　壽太郎 青森県立中央病院　糖尿病・内分泌内科　松井　淳 青森県立中央病院　看護部　砂子　麻衣香 ランチョンセミナー 日本生命病院　副院長兼内科統括兼腎臓内科部長　宇津　貴　他
内　容	糖尿病に関する臨床研究の発表・知識の交換・情報の提供等を行い、糖尿病に関する研究の進歩・知識の普及を図ることを目的として、学術集会を開催した。

呼吸器ハンズオンセミナー2025

開催日	令和７年８月31日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学大学院医学研究科呼吸器内科学講座、 NPO法人北東北呼吸器医療推進機構 【共催】日本呼吸器学会東北支部会

会場・対象・参加人数	【会場】青森県立中央病院研修室 【対象】青森県内医師、初期研修医、医学部実習学生 【参加人数】47人
講　師	弘前大学大学院医学研究科呼吸器内科学講座
内　容	シミュレーターを用いた気管支鏡講座を行うとともに、気管支鏡に伴う医療事故の事例検討を通して、臨床医において習得しておきたい呼吸器診療の教育、普及を行った。

がんプロ市民公開講座

開催日	令和８年２月21日
主催・共催・後援など	【主催】東北広域次世代がんプロ養成プラン弘前大学事務局 【共催】第29回東北家族性腫瘍研究会
会場・対象・参加人数	【会場】青森観光物産館アスパム　５階あすなろ 【対象】一般市民、医療従事者、患者・家族 【参加人数】42人
講　師	聖路加国際大学看護学部　准教授　青木　美紀子 秋田大学医学部附属病院看護部　遺伝看護専門看護師　納富　理絵
内　容	講演及びディスカッション （がんを遺伝との関係から紐解き、「遺伝性腫瘍」「家族性腫瘍」について知り、どのように向き合い対処していけばよいのかを学ぶ機会とした。）

（５）大学院保健学研究科

R７『世界自閉症啓発デー発達障がい啓発週間 in 青森』

開催日	令和７年４月５日
主催・共催・後援など	【主催】青森県障がい福祉課 【共催】弘前大学大学院保健学研究科、青森県、青森県自閉症協会、 青森県発達障がい者支援センターステップ 【後援】青森県公認心理師・臨床心理士協会、青森県精神保健福祉協会、青森市、 青森県立保健大学
会場・対象・参加人数	【会場】県民福祉プラザ４階、オンライン 【対象】当事者、支援者、一般市民 【参加人数】62人
講　師	青森県立保健大学社会福祉学科　講師/NPO法人アスペエルデの会　理事　田中　尚樹 青森県自閉症協会　青森地区ペアレントメンター
内　容	保健学研究科子どもの発達支援研究室では、４月５日の世界自閉症啓発デー及び４月２～８日の発達障害啓発週間にちなみ、青森県とともに、世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間ｉｎ 青森の企画・広報用チラシ作成及び動画作成を行い、自閉症をはじめとする発達障害の理解について、県民に普及啓発を行った。

育児中の母親のためのリフレッシュ講座

開催日	① 令和７年４月16日　② 令和７年５月21日　③ 令和７年５月26日 ④ 令和７年６月４日　⑤ 令和７年６月11日　⑥ 令和７年６月23日 ⑦ 令和７年７月10日　⑧ 令和７年７月17日　⑨ 令和７年９月５日 ⑩ 令和７年９月９日　⑪ 令和７年９月18日　⑫ 令和７年10月３日 ⑬ 令和７年11月７日　(中止)令和７年12月５日　⑭ 令和８年１月23日 ⑮ 令和８年３月９日　⑯ 令和８年３月12日
主催・共催・後援など	【共催】弘前大学大学院保健学研究科 ①②⑤⑦⑨⑫⑬ 弘前市駅前こどもの広場 ③⑮ 大浦保育園地域子育て支援センター ④ 中泊町教育委員会、こどまり保育園子育て支援センター ⑥⑯ 弘前大学医学部附属病院　小児病棟 ⑧⑭ みどり保育園地域子育て支援センター ⑩ 中泊町教育委員会、中里こども園子育て支援センター ⑪ 中央公民館岩木館
会場・対象・参加人数	【会場】①②⑤⑦⑨⑫⑬ 弘前市駅前こどもの広場 ③⑮ 大浦保育園 ④ こどまり保育園 ⑥⑯ 弘前大学医学部附属病院　小児病棟 ⑧⑭ みどり保育園地域子育て支援センター ⑩ 中里こども園 ⑪ 中央公民館岩木館 【対象】育児中の方 【参加人数】89人
講　師	弘前大学大学院保健学研究科看護学領域　准教授　北島　麻衣子 弘前大学大学院保健学研究科看護学領域　准教授　高間木　静香 弘前大学大学院保健学研究科看護学領域　助教　　橋本　美亜
内　容	本事業は、地域で子育てをしている母親を対象に、リフレッシュ講座を開催するもので この講座の実施により、地域で子育てをしている母親が心身ともに健やかに生活していくための一助とすること、ならびに、講座の開催を通じて教育・知的資源を地域社会へ還元すると同時に地域社会から学ぶ機会とすることを目的としている。講座の内容は、精油を用いた制作体験（ハンドクリーム、エアーフレッシュナー、蜜蝋缶など）、ヨーガ、子どもの看護や子育てに関する講話など、ニーズに合わせて講座内容を工夫しながら実施した。

弘前大学大学院保健学研究科　生体応答科学研究センター　弘前市民公開講座

開催日	令和８年２月７日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学大学院保健学研究科　生体応答科学研究センター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学医学部保健学科校舎B棟３階　33講義室 【対象】一般市民の 【参加人数】14人
講　師	弘前大学医学部附属病院　糖尿病看護認定看護師　桜庭　咲子 松山　裕美 弘前大学医学部附属病院　栄養士　藤田　裕恵 弘前大学医学部附属病院　理学療法士　千々松　雅人 弘前大学大学院保健学研究科　教授/生体応答科学研究センター長　宮崎　航

内　容	弘前大学医学部附属病院勤務の看護師・管理栄養士・理学療法士が多職種連携のもと、糖尿病の基本知識に加え、生活習慣、食事療法、運動療法について、具体例を交えて平易に解説し、また、簡単な実技も取り入れて実践し、市民の健康増進につなげることを目指す目的で実施した。

知らねばまいね　認知症

開催日	令和７年９月15日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学医学部心理支援科学科老年臨床心理学研究室 【後援】（公社）認知症の人と家族の会青森県支部
会場・対象・参加人数	【会場】ヒロロ３F 多世代交流室Ｉイベントスペース 【対象】一般市民 【参加人数】100人
講　師	弘前大学医学部心理支援科学科　老年臨床心理学研究室　教授　大庭　輝 弘前大学医学部心理支援科学科　老年臨床心理学研究室　大学院生　加藤　実結 弘前大学医学部心理支援科学科　老年臨床心理学研究室　大学院生　齋藤　和夢 弘前大学医学部心理支援科学科　老年臨床心理学研究室　大学院生　佐藤　桃佳 弘前大学医学部心理支援科学科　老年臨床心理学研究室　大学院生　牛田　歌帆 弘前大学医学部心理支援科学科　老年臨床心理学研究室　大学院生　堀川　聡一朗 弘前大学医学部心理支援科学科　老年臨床心理学研究室　学部学生　垣内　春美 弘前大学医学部心理支援科学科　老年臨床心理学研究室　学部学生　竹下　静夏 弘前大学医学部附属病院　認知症認定看護師　葛西　愛子 公益社団法人認知症の人と家族の会青森県支部　副代表・薬剤師　加福　雅行 弘前愛成会病院　認知症専門医　平野　敬之
内　容	認知症の正しい知識と理解の啓発を目的とした講話、心理学実験を基にした認知症の人の心の世界の体験、認知症のシンボルカラーであるオレンジを知ってもらうための、学生によるモールフラワーづくりを行った。

第10回放射線看護セミナー

開催日	令和７年９月27日
主催・共催・後援など	【主催】国立大学法人弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会放射線看護教育部門
会場・対象・参加人数	【会場】Web開催 【対象】放射線看護に興味・関心のある医療職者 【参加人数】258人
講　師	弘前大学 災害・被ばく医療教育センター　助教　辻口　貴清 弘前大学医学部附属病院 医療技術部放射線部門 主任診療放射線技師/医学物理士　小原　秀樹 弘前大学医学部附属病院　放射線看護専門看護師 がん放射線療法看護認定看護師　佐藤　裕美子
内　容	放射線看護に携わる看護師のために放射線の基礎を分かりやすく解説するとともに、放射線診療における看護師の役割について理解を深めることを目的としている。第10回となる本年は、放射線診療における多職種連携をテーマにしている。診療放射線技師、看護師の視点から、最近の放射線診療の実際や、放射線診療におけるそれぞれの職種の役割等について講演を行った。

2025年度放射線看護ベーシックトレーニング

開催日	令和７年12月６日
主催・共催・後援など	【主催】国立大学法人弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会放射線看護教育部門
会場・対象・参加人数	【会場】Web開催 【対象】看護職の方、看護教育に関わる教育機関の先生方 【参加人数】112人
講　師	弘前大学 災害・被ばく医療教育センター　助教　辻口　貴清 弘前大学大学院保健学研究科　寺島　真悟 弘前大学大学院保健学研究科　小山内　暢
内　容	平成28年度に文部科学省の「機関横断的な人材育成事業」に３年計画で採択された公益社団法人日本アイソトープ協会の「看護職の原子力・放射線教育トレーナーズトレーニング」の後継企画であり、本学主催での開催は今年で７年目となる。放射線看護関連科目を担当できる教員の育成や放射線及びその健康影響・リスクについての知識を身につけた看護職の育成を目的とし開催した。

（６）大学院理工学研究科

弘前大学 リチウム資源採取･回収技術 シンポジウム 2025

開催日	令和７年４月18日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学 【共催】トヨタ自動車株式会社、中部電力株式会社
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】一般市民、大学生、教職員、社会人 【参加人数】300人
講　師	弘前大学大学院理工学研究科　教授　佐々木　一哉 経済産業省商務情報政策局　電池産業課長　青木　洋紀 DOWAエコシステム株式会社環境ソリューション室環境技術研究所長　渡邊　亮栄 住友金属鉱山株式会社　技術本部技術企画部　研究主幹　浅野　聡 川崎重工業株式会社エネルギーソリューション＆マリンカンパニー プラントディビジョン 産業機械総括部プラントソリューション部　基幹職　高田　祥嗣 JX金属サーキュラーソリューションズ株式会社LiBリサイクル 事業部技術開発部技術担当部長　吉村　昭 興和株式会社　産業関連事業部事業開発室　室長　畑　義人 電池サプライチェーン協議会　業務執行理事　森島　龍太
内　容	弘前大学リチウムコア技術開発センターの設立を契機として、経済安全保障上重要な資源であるリチウムの安定確保を目的に、産学官連携によりシンポジウムを開催した。

夏休みの数学

開催日	① 令和７年８月２日　　② 令和７年８月３日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学理工学研究科
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学理工学部 【対象】中学校、高校の数学担当教員、一般市民、高校生 【参加人数】51人

講　師	① 弘前大学大学院理工学研究科　助教　三浦　達彦 ② 弘前大学大学院理工学研究科　教授　守　真太郎
内　容	中学校や高等学校の数学の教科書に出てくる数学の世界のすぐ近くに面白い話題がたくさんあり、そのような数学の魅力の一端を高校生や一般の市民の方に知ってもらうための企画を実施した。

化学への招待

開催日	令和７年７月19日
主催・共催・後援など	【主催】日本化学東北支部、弘前大学大学院理工学研究科 【後援】弘前市教育委員会、青森県教育委員会、東北ポリマー懇話会、弘化会
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学理工学部、教育学部、農学生命科学部 【対象】高校生、中学生、一般市民 【参加人数】37人
講　師	弘前大学大学院理工学研究科　教授　関谷　亮 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　北川　文彦 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　太田　俊 弘前大学大学院理工学研究科　教授　川上　淳 弘前大学大学院理工学研究科　助教　関口　龍太 弘前大学大学院理工学研究科　教授　伊東　俊司 弘前大学農学生命科学部　准教授　栗田　大輔 弘前大学大学院理工学研究科　助教　呉羽　拓真 弘前大学教育学部　准教授　岩井　草介 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　山崎　祥平 弘前大学大学院理工学研究科　教授　阿部　敏之 弘前大学大学院理工学研究科　助教　松田　翔風
内　容	先端科学・技術を支える学問分野である化学への関心を高めることを目的として、中学生・高校生を対象に開催する講座を実施した。

宇宙物理学研究センター講演会

開催日	令和７年８月７日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学理工学研究科宇宙物理学研究センター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学理工学部 【対象】高校生、一般市民 【参加人数】39人
講　師	名古屋大学　名誉教授　川村　静児 弘前大学大学院理工学研究科　教授　浅田　秀樹
内　容	国際的に高い評価をいただいている研究について、米国および日本における重力波観測の第一線で活躍してきた著名研究者を招き、高校生・一般市民を対象に分かりやすく解説する講演会を実施した。

国際交流協定校教員による「特別講演会」
カーボンニュートラルに向けた最新のエネルギー・環境技術

開催日	令和７年９月２日
主催・共催・	【主催】弘前大学理工学研究科

後援など	
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学理工学部 【対象】大学生、教職員、一般市民 【参加人数】33人
講　師	太原理工大学　教授　　闫　晓亮 太原理工大学　副教授　杜　晓
内　容	本学の国際交流協定校である太原理工大学との学術交流の一環として実施する、同大学教員によるカーボンニュートラルに向けた最新のエネルギー・環境技術をテーマとした特別講演会を実施した。

雪の講演会「青森県の大雪災害の実態と今後の冬にむけて」

開催日	令和７年12月１日
主催・共催・後援など	【主催】防災科学技術研究所、弘前大学 【共催】東北大学 【後援】青森県、弘前市、日本雪氷学会東北支部、日本雪工学会北東北支部
会場・対象・参加人数	【会場】弘前市民文化交流館ホール 【対象】一般市民 【参加人数】150人
講　師	弘前大学大学院理工学研究科　　准教授　　石田　祐宣 防災科学技術研究所　雪氷防災研究センター　特別研究員　荒川　逸人 東北大学　災害科学国際研究所　准教授　　蝦名　裕一 青森県農林水産部りんご果樹課　総括主幹　　工藤　秀樹 東北大学大学院理学研究科　　教授　　山崎　剛 青森県県土整備部道路課　　課長　　鈴木　英宗 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター　センター長　　中村　一樹 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター　上席研究員　　山口　悟
内　容	2024/2025年冬季に青森県津軽地方を中心として発生した記録的な大雪災害を対象に、その実態と影響を科学的データおよび最新の研究成果に基づいて整理・共有するとともに、今後の雪氷災害への適応策を検討することを目的として講演会を開催した。

（７）大学院地域社会研究科

弘前大学大学院地域社会研究科　令和７年度公開セミナー

開催日	令和７年11月26日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学大学院地域社会研究科
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】一般、教職員、学生等 【参加人数】17人
講　師	弘前大学大学院地域社会研究科　教授　長南　幸安 弘前大学大学院地域社会研究科　教授　原　克昭 弘前大学大学院地域社会研究科　教授　長谷河　亜希子

内　容	地域社会研究科の授業内容を地域住民に公開することにより、地域住民が大学院レベルの専門的知識を用いて、地域の課題解決のための担い手となる人財育成を目的とし、本研究科の３つの講座が、それぞれの特長を活かした講義を実施した。

（８）大学院地域共創科学研究科

弘前大学大学院地域共創科学研究科「地域共創シンポジウム2025」

開催日	令和８年２月５日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学大学院地域共創科学研究科
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】一般、教職員、学生等 【参加人数】47人
講　師	弘前大学大学院地域共創科学研究科　教授　岩井　邦久 弘前大学大学院地域共創科学研究科　教授　平井　太郎 弘前大学大学院地域共創科学研究科　教授　佐々木　純一郎 佐瀧本店　佐藤　雅之 ガマズミ生産者　中平　幸孝、片　ルリ子 アグリーンハート　佐藤　拓郎 Solid Surface　酒造　孝、高野　和奏 ABOファーム　阿保　洋一 青森県県産品販売・輸出促進課 青森県食・ブランド流通推進課
内　容	社会学・工学・経営学・農学を中心に、関連諸学や地域機関・市民との協働により、「地域を守り」「地域から攻める」ことに資する研究シーズの探査や基礎研究および応用研究を意味する「共創研究」に関する研究成果を紹介するシンポジウムを開催した。

（９）医学部附属病院

治療・受療リテラシー向上事業「高血圧治療に求められるもの」

開催日	令和７年８月23日
主催・共催・後援など	【実施主体】青森県、弘前大学医学部附属病院　脳卒中・心臓病等総合支援センター 【後援】公益社団法人青森県医師会
会場・対象・参加人数	【会場】新町キューブ３階会議室 【対象】青森県の医療従事者、県民の保健指導に携わる保健師や栄養士など 【参加人数】103人
講　師	青森県健康医療福祉部　がん・生活習慣病対策課 総括主幹・健やか力推進グループマネージャー　池田　安克 社会医療法人製鉄記念八幡病院　顧問　土橋　卓也
内　容	青森県では今年度より、県全体で高血圧診療における「クリニカル・イナーシャ」への対策を進め、高血圧の未治療者を減少させていく取組を開始した。診療における高血圧患者との関わりや治療における課題への理解を深め、医療提供側におけるイナーシャ改善の一助とした。

AICON 市民公開講座

開催日	令和７年８月30日
主催・共催・後援など	【主催】青森県感染対策協議（AICON） 【共催】弘前大学医学部附属病院 【後援】青森県
会場・対象・参加人数	【会場】弘前市民文化交流館ホール(ヒロロ４階) 【対象】一般市民（定員20名） 【参加人数】12人
講　師	弘前大学医学部附属病院医療技術部リハビリテーション部門　理学療法士　前田　和志 弘前大学医学部附属病院医療技術部リハビリテーション部門　理学療法士　葛原　康介 弘前大学医学部附属病院感染制御センター長　齋藤　紀先 弘前大学医学部附属病院感染制御副センター長　糸賀　正道 弘前大学医学部附属病院感染対策担当看護師長　木村　俊幸 弘前大学医学部附属病院感染管理認定看護師　尾崎　浩美 弘前大学医学部附属病院感染管理認定看護師　花田　嵩也 弘前大学医学部附属病院感染制御センター看護師　安田　あゆみ
内　容	一般市民に対し、高齢の家族と共に暮らす時代において、どのように健康に過ごしてもらうかを考える機会とした。理学療法士から助言を受けながら、さまざまな場面での移乗動作（介助方法）について学習・体験し、筋力維持のために家庭でできるエクササイズや、セラバンドを用いたトレーニングにも取り組んだ。さらに、家族全員の感染を防ぐための第一歩として、基本的な感染対策への理解を深めることを目的に、手指消毒剤の擦り込み方法や、石けんと流水による手洗いの状態を、蛍光塗料とブラックライトを用いて確認した。

みんなで知りたいがんのこと・肝のこと 2025

開催日	令和７年９月14日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学医学部附属病院　腫瘍センター 弘前大学医学部附属病院　肝疾患相談センター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前市民文化交流館ホール（ヒロロ４階） 【対象】一般市民 【参加人数】40人
講　師	弘前大学　特別顧問　中路　重之
内　容	弘前大学医学部附属病院腫瘍センターと肝疾患相談センター主催で一般市民を対象にがんならびに肝炎について理解を促し予防早期発見早期治療についての啓発イベントを開催した。

令和７年度緩和ケア研修会

開催日	令和７年９月20日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学医学部附属病院 （企画責任者：弘前大学大学院医学研究科地域侵襲制御医学講座（麻酔科）木村 太）
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院　外来診療棟5階　大会議室 【対象】青森県内でがん等の診療に携わる医療従事者で、規定のe-learning 研修の受講を修了した者　30名

	【参加人数】23人
講　師	一部事務組合下北医療センターむつ総合病院　山田　恭吾 医療法人ときわ会ときわ会病院　蝦名　正子 八戸市立市民病院　細野　由希子 日本調剤弘前薬局　岡野　聡 独立行政法人国立病院機構　弘前総合医療センター　佐井　菜央美 一般財団法人双仁会厚生看護専門学校　髙橋　由香子 つがる西北五広域連合つがる総合病院　神　梨沙
内　容	がん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を修得することを目的とした。

第８回県民公開講座「全国初！めざせ高血圧ゼロの県」

開催日	令和７年10月４日
主催・共催・後援など	【実施主体】特定非営利活動法人日本高血圧協会、青森県、青森県・弘前大学医学部附属病院　脳卒中・心臓病等総合支援センター、青森地域広域事務組合消防本部、弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座、大間町、大鰐町、風間浦村、五所川原市、佐井村、三戸町、七戸町、外ヶ浜町、つがる市、中泊町、南部町、野辺地町、弘前市、深浦町 【後援】青森県医療ソーシャルワーカー協会、東奥日報社、陸奥新報社 【協賛】オムロン ヘルスケア株式会社、大塚食品株式会社、株式会社みすずコーポレーション
会場・対象・参加人数	【メイン会場】青森県労働福祉会館　大会議室（青森市） 【サテライト会場】外ヶ浜町総合福祉センター　などわーる（外ヶ浜町）、青森県武道館第三会議室（弘前市）、地域交流センター鰐come（大鰐町）、五所川原市役所（五所川原市）、つがる市民健康づくりセンター（つがる市）、深浦町保健センター（深浦町）、中泊町役場　小会議室（中泊町）、野辺地町役場　町民ホール（野辺地町）、七戸中央公民館（七戸町）、大間町健康福祉センター　スマイリー（大間町）、三戸町役場保健センター　集団指導室（三戸町）、南部町立町民ホール「楽楽ホール」（南部町） 【対象】青森県民 【参加人数】420人
講　師	青森県健康医療福祉部　部長　守川　義信 一般社団法人青森県薬剤師会　理事　前田　法晃 テック認定栄養ケア・ステーション勤務・青森県栄養士会理事　武井　秀貴 弘前大学医学部附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センター長　富田　泰史
内　容	青森県民の皆様に脳卒中や心臓病の原因である高血圧症の予防、治療等に関する情報を広く周知する。

公開講座こどもかんごねっと　医療的ケア児事例検討会

開催日	令和７年10月10日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学医学部附属病院看護部 【共催】令和７年度青森県看護協会地域の看護力強化支援事業 【協力】弘前医療的ケア児を支援する会

会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学医学部保健学科21講義棟（E棟２階） 【対象】医療的ケア児に携わる保健・医療・福祉スタッフ 【参加人数】74人
講　師	七峰会総合福祉相談支援センタービリーブ　管理者　蝦名　美穂 ときわ会訪問看護ステーション　管理者　中嶋　亜希子 青森病院　療育指導室　児童指導員　安田　圭吾 オードリーナースステーションサテライト　小児看護専門看護師　奥寺　さおり 弘前大学医学部附属病院小児看護専門看護師　齋藤　身和
内　容	厚生労働省の報告によると令和元年に２万人を超える医療的ケア児がいると報告されている。令和３年医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が施行され、医療的ケア児を社会全体で支援するため、各自治体で支援体制の整備が進んでいる。青森県においては、青森県小児在宅支援センターを中心に医療的ケア児支援が推進されており、青森圏域、八戸圏域、上十三圏域では圏域内の講演会や交流会が開催されている。津軽圏域においても、令和５年９月「弘前医療的ケア児等を支援する会　わ」（患者会）が設立された。また、弘前市内の医療的ケア児の個別避難計画が作成され、個別避難訓練が実施され報道された。弘前大学医学部附属病院看護部においても、保健・医療・福祉に携わる関係者が医療的ケア児の理解を深めるため貢献していきたいと考えている。医療的ケア児支援のためのネットワークを構築と事例検討会を通した知識の向上に努めたいと考える。患者会の協力を得て、公開講座を企画し、実施した。

肝炎コーディネーター養成研修

開催日	令和７年10月20日
主催・共催・後援など	【共催】日本肝臓学会、弘前大学医学部附属病院肝疾患相談センター、青森県
会場・対象・参加人数	【会場】Web開催（Zoom） 【対象】肝炎医療コーディネーター、県内の医療機関（歯科診療所及び薬局を含む）、保健所及び市町村の肝炎対策担当部署、そのほか職域や身近な地域など様々な領域の方 【参加人数】95人
講　師	日本肝臓学会　常務理事　考藤　達哉 青森県健康医療福祉部　がん・生活習慣病対策課　七田　欣恵 弘前大学医学部附属病院薬剤部　横山　智士 弘前大学医学部附属病院栄養管理部　三上　恵理 弘前大学医学部附属病院消化器血液免疫内科肝疾患相談センター長　飯野　勢
内　容	肝炎対策を推進するため、県民を対象とする肝炎医療の普及啓発、患者及びその家族への情報提供等の支援により、肝炎ウイルス検査陽性者等の肝硬変及び肝がんへの移行を予防すること等を目的として設置する青森県肝炎医療コーディネーターの養成研修会を実施した。今回は青森県の肝炎医療コーディネーターの役割をテーマとし、Webで開催（Live）した。

第18回弘大病院がん診療市民公開講座

開催日	令和７年11月15日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学医学部附属病院
会場・対象・参加人数	【会場】弘前パークホテル　４階　ラ・メェラ 【対象】一般市民 【参加人数】122人

講　師	医学医療情報学講座　　助教　　田中　里奈 呼吸器内科・感染症科　助教　　秋田　貴博 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座　准教授　工藤　直美 形成外科学講座　　教授　　漆舘　聡志
内　容	弘前大学医学部附属病院のがん診療を広く市民の皆様に知って頂くことを目的に開催し、がんについて専門家がそれぞれの立場からわかりやすく講演した。

第４回医療・ケアスタッフ講演会

「心原性脳塞栓症について～病態生理とリハビリテーション～」

開催日	令和８年２月10日
主催・共催・後援など	【主催】青森県、弘前大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター 【後援】一般財団法人黎明郷、弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
会場・対象・参加人数	【会場】Web開催（Zoom） 【対象】脳卒中・心臓病患者の医療やケアに関わるスタッフなど 【参加人数】56人
講　師	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター　院長　萩井　譲士 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師　　工藤　晃
内　容	①脳梗塞の一種で重篤な症状や後遺症を伴う心原性脳塞栓症について、病態生理と予防に関して理解を深めた。 ②機能予後不良患者に対するリハビリテーションを学ぶことで、回復期～維持期・生活期の療養支援の一助とした。

腎臓病教室

開催日	令和７年12月11日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学医学部附属病院　循環器腎臓内科
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院　多目的棟 【対象】腎臓病に興味のある方 【参加人数】５人
講　師	弘前大区医学部附属病院循環器腎臓内科学講座　奈川　大輝 弘前大区医学部附属病院看護部　入院棟東５階　日村　美玲 弘前大区医学部附属病院栄養管理部　　野呂　桃花
内　容	腎臓病について、基礎的な病態、生活支援、食事指導を行った。

令和７年度がん治療の薬薬連携に関する研修会

開催日	令和８年２月５日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学医学部附属病院　薬剤部、青森県がん診療連携協議会
会場・対象・参加人数	【会場】Web開催（Webex） 【対象】薬剤師等の医療従事者 【参加人数】164人

講　師	弘前大学医学部附属病院薬剤部　細井　一広
内　容	切除不能・進行再発胃がん治療の副作用対策について医療従事者（主に保険薬局の薬剤師）に対して研修を行った。

（10）被ばく医療総合研究所／被ばく医療連携推進機構

災害支援医療従事者養成講座（履修証明プログラム）

開催日	① 令和７年６月19日　② 令和７年７月23日　③ 令和７年８月27日 ④ 令和７年９月12日　⑤ 令和８年２月27日　⑥ 令和８年３月12日
主催・共催・後援など	【主催】被ばく医療総合研究所
会場・対象・参加人数	【会場】①②③ 保健学研究科　遠隔講義室 ④⑤⑥ 保健学研究科　大学院講義室１ 【対象】本学教職員・学生、学外関係者、一般市民 【参加人数】196人
講　師	① コロラド州立大学環境放射線保健学科学部　准教授　加藤　宝光 ② マウントロイヤル大学　准教授　Mathew Swallow ③ マサチューセッツ工科大学　助教　Haruko Murakami Wainwright ④ ユーラシア国立大学　教授　Kassym Zhumadilov ⑤ カーン・ノルマンディ大学　教授　Siamak Haghdoost ⑥ アデレード大学　准教授　Tony Hooker
内　容	被ばく医療総合研究所に設置している国際放射線科学コラボレーションセンターにおいて開催している定期セミナーで、毎回、世界の著名な研究者を講師として招聘し、関連国際研究機関や欧米・アジア各国の環境・原子力関連省庁、大学などから多数参加し、放射線科学の知見を深めるとともに、活発な議論が行われた。

被ばく医療総合研究所特別セミナー・環境省ラジエーションカレッジセミナー

開催日	① 令和７年９月９日　② 令和７年11月４日
主催・共催・後援など	【共催】被ばく医療総合研究所、環境省事業ぐぐるプロジェクト
会場・対象・参加人数	【会場】① 保健学研究科　21講義室　② 保健学研究科　大学院講義室１ 【対象】本学教職員・学生、学外関係者、一般市民 【参加人数】53人
講　師	① 広島大学原爆放射線医科学研究所ゲノム障害医学研究センター　教授　笹谷　めぐみ ② 福島県立医科大学放射線健康管理学講座　主任教授　坪倉　正治
内　容	環境省が推進する「ぐぐるプロジェクト」の一環である「ラジエーションカレッジセミナー」との共催で開催した。

「復興知」事業成果報告会　弘前大学ふれあい文化祭

開催日	令和７年９月20日
主催・共催・後援など	【共催】弘前大学、道の駅なみえ 【後援】浪江町

会場・対象・参加人数	【会場】道の駅なみえイベント広場・会議室 【対象】福島県浪江町民、近隣市町村住民ほか、一般市民 【参加人数】156人
講　師	弘前大学副学長（Well-being戦略担当）教授/グローバルWell-being総合研究所　副所長 健康未来イノベーション研究機構　機構長　　村下　公一 弘前大学被ばく医療総合研究所　所長　教授　　床次　眞司 弘前大学被ばく医療総合研究所　教授　　三浦　富智 弘前大学被ばく医療総合研究所　教授　　赤田　尚史 弘前大学被ばく医療総合研究所　准教授　　大森　康孝 弘前大学教育学部　　教授　　長南　幸安 弘前大学大学院保健学研究科 大学院生　絆さくらの会
内　容	福島県浪江町「道の駅なみえ」において、「復興知」事業成果報告会 ふれあい文化祭を開催した。弘前大学は、平成23年に浪江町と連携協定を締結して以来、地域に根ざした復興支援活動を継続して実施してきた。本イベントは、令和３年度から福島イノベーション・コースト構想推進機構の支援を受けて取り組んできた「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業の最終年度を迎えるにあたり、これまでの活動成果を地域の方々と共有するために開催した。

被ばく医療総合総合研究所特別セミナー

開催日	① 令和７年10月22日　　② 令和７年11月26日
主催・共催・後援など	【主催】被ばく医療総合研究所
会場・対象・参加人数	【会場】①② 保健学研究科　大学院講義室１ 【対象】本学教職員・学生、学外関係者、一般市民 【参加人数】59人
講　師	① 弘前学院大学　非常勤講師（元 弘前大学 教授）　　山田　智恵理 ② 弘前大学　名誉教授（前 弘前大学大学院理工学研究科 教授）片岡　俊一
内　容	①「グローバルヘルス課題と国際看護学・活動」と題した特別セミナーを開催した。 ②「地盤によって異なる地震の揺れ －東日本大震災時の浪江町の地震動を考える－ 」と題した特別セミナーを開催した。

第５回災害医療セミナー

開催日	令和７年11月11日
主催・共催・後援など	【主催】災害・被ばく医療教育センター
会場・対象・参加人数	【会場】医学部コミュニケーションセンター 【対象】災害支援医療従事者養成講座受講者、本学教職員・学生 【参加人数】56人
講　師	青森県庁医療薬務課薬務指導グループ　技師　　澤頭　大幹 秋田大学医学部附属病院高度救命救急センター　山平　大介
内　容	外部講師を招聘し「青森県の原子力災害医療体制」、「2023年秋田豪雨から学ぶ近年の水害と医療機関の備え」について講演を実施した。

災害支援医療従事者養成講座（履修証明プログラム）

開催回数	32回
主催・共催・後援など	【主催】災害・被ばく医療教育センター
会場・対象・参加人数	【対象】青森県内外の医療機関、原子力関連機関所属者 【参加人数】31人
講　師	弘前大学被ばく医療連携推進機構　客員研究員　片岡　俊一 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　石田　祐宣 弘前大学農学生命科学部　准教授　鄒　青穎 弘前大学大学院理工学研究科　講師　佐々木　実 弘前大学大学院理工学研究科　教授　鳥飼　宏之 弘前大学被ばく医療連携推進機構　災害・被ばく医療教育センター助教　辻口　貴清 弘前大学被ばく医療連携推進機構　災害・被ばく医療教育センター教授　伊藤　勝博 青森地方気象台防災管理官　佐々木　幸夫 弘前大学大学院教育学研究科　教授　小岩　直人 青森県庁危機管理局　総括主幹　屋崎　雪絵 弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター　技術補佐員 三上　直伸 国立病院機構本部ＤＭＡＴ事務局福島復興支援室　室長補佐　小早川　義貴 青森県立中央病院　災害医療管理監　小笠原　賢 東北大学病院講師　藤田　基生 弘前大学大学院保健学研究科　准教授　漆坂　真弓 弘前大学大学院医学研究科　教授　花田　裕之 青森県庁医療薬務課地域医療確保グループ　主査　山崎　智哉 青森県庁医療薬務課薬務指導グループ　技師　澤頭　大幹 弘前医療福祉大学　准教授　若松　淳 青森県立保健大学　講師　千葉　武揚 愛知医科大学　教授　津田　雅庸 秋田大学医学部附属病院高度救命救急センター　山平　大介 青森県立中央病院薬剤部　主査　雪田　大樹 弘前大学医学部附属病院　講師　奈良岡　征都 弘前大学医学部付属病院医事課　主任　花田　昌吾 青森新都市病院　看護師長　片山　香織 青森新都市病院　看護師長　小林　瞳 むつ総合病院救急検査　看護師長　中島　さおり むつ総合病院　看護師　附柳　あみ
内　容	県内外の医療機関、原子力関連機関所属者などを対象に、今後予想される日本海溝・千島海溝を震源とする巨大地震、原子力災害を含めた各種災害発生時に医療従事者の支援が可能な人材を育成することを目的として開講した。

弘前大学被ばく医療フォーラム 2025

開催日	令和８年１月29日
主催・共催・後援など	【主催】災害・被ばく医療教育センター
会場・対象・参加人数	【会場】ホテル青森 【対象】県内の医療機関、原子力関連機関所属者 【参加人数】35人

内　容	「青森県の原子力災害に対応する人材は確保されたのか？」をテーマに、県内の原子力関連機関、原子力災害拠点病院などの担当者による取組紹介、総合討論を実施した。

（11）地域戦略研究所

Gastification Technology in China, From Fossil Fuel to Renewable Energy
（中国のガス化技術：化石燃料から再生可能エネルギーへ）

開催日	令和７年10月３日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学地域戦略研究所　官　国清
会場・対象・参加人数	【会場】コラボ弘大８階八甲田ホール 【対象】再生可能エネルギーに興味のある方（主に学生） 【参加人数】25人
講　師	中国・華東理工大学　教授　Lu DING
内　容	中国のガス化技術に係る講演会を実施した。

（12）国際連携本部

外国人留学生から直接聞ける世界のおはなし

開催日	① 前期　令和７年７月12日　　② 後期　令和８年１月17日
主催・共催・後援など	【主催】弘前市教育委員会（弘前市立中央公民館） 【共催】弘前大学国際連携本部
会場・対象・参加人数	【会場】弘前文化センター 【対象】弘前市在住の方または市内に通学、通勤されている方 【参加人数】33人（前期　19人、後期　14人）
講　師	弘前大学で日本語を学ぶ外国人留学生
内　容	弘前大学で日本語を学ぶ外国人留学生が、母国について日本語で紹介することで、学習成果を発表する場となると同時に、外国人留学生と市民との交流の場となり、市民が外国の文化を知る機会を創出している。

（13）地域創生本部

弘大じょっぱり起業家塾2025

開催日	① 基礎コース 令和７年６月26日、７月３日、７月17日、８月28日、９月11日 ② 実践コース 令和７年９月25日、10月９日、10月16日、11月６日、12月11日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学地域創生本部 【後援】青森経済同友会、弘前商工会議所、青森県中小企業団体中央会、 （一社）ｸﾗﾝﾋﾟｵﾆｰ津軽
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】大学生、教職員、自治体職員、高校生、社会人 【参加人数】157人

講　師	① 基礎コース （株）寅福プラント　代表取締役社長　加藤　夢人 （株）日本政策金融公庫　融資課長　渋谷　祥 青松事務所　創業コーディネーター　植松　宏真 ＪＲ東日本スタートアップ（株）代表取締役社長　柴田　裕 合同会社美枝紙　代表　山科　則之 ② 実践コース 弘前大学人文社会科学部　教授　森樹男 弘前大学農学生命科学部　教授　石塚　哉史
内　容	ビジネスモデルの組み立て方や地域資源を活かした経営戦略など、新たなビジネスにつながる学びを提供することで、起業家の育成や若者の雇用の受け皿を増加させ、今後さらなる起業家の育成や地域の振興を促進することを目的として実施した。

令和７年度研究体験事業

開催日	① 令和７年８月23日　② 令和８年２月21日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学文京キャンパス 【対象】小学生 【参加人数】28人
講　師	① 弘前大学教育学部　講師　益川　満治 弘前大学理工学研究科　教授　久保田　健 ② 弘前大学人文社会科学部　助教　佐々木　あすか 弘前大学農学生命科学部　助教　管原　亮平
内　容	学生ボランティアの引率のもと大学の研究体験を実施するとともに、学生ボランティアと児童が共に昼食をとり交流を行うことで、普段感じることのない大学の雰囲気に触れることや最先端の研究室の様子を知り、勉学への意欲や知的好奇心を高めることを目的に当該事業を実施した。

令和７年度市民ボランティア講座

開催日	① 令和７年10月16日　② 令和７年11月16日
主催・共催・後援など	①【主催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター 【共催】一般社団法人みらいねっと弘前 ②【共催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター、一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと、弘前市
会場・対象・参加人数	【会場】① 弘前大学人文社会科学部４階多目的ホール ② 弘前大学文京町キャンパス内第一体育館 【対象】一般市民 【参加人数】90人
講　師	① 鳥取市役所総務部人権政策局中央人権福祉センター　総括主査　川口　寿弘 ② 一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと　代表理事　小山内　世喜子

内　容	① 鳥取県鳥取市で地域食堂を拠点とした地域づくりをされている、鳥取市中央人権福祉センター 総括主査 川口 寿弘 氏 をお招きし、「地域食堂（だれでも食堂）からはじまる地域づくり」をテーマに講演いただいた。鳥取市では、こども食堂から始まり、団体・企業・行政の官民連携かつ広域連携へとつながった「麒麟のまち地域食堂ネットワーク」を中心にして地域食堂を展開している。その地域食堂を、地域に必要な資源として位置づけ、地域食堂を拠点とした地域づくりを目指す活動について伺った。 ② 一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと及び弘前市との協働により、内閣府防災に採択された「官民連携による避難所運営の質の向上強化事業」の一環として実施。「官学民による多様性配慮の避難所運営訓練」をテーマに、地域住民と学生が主体となり避難所の改善に取り組む訓練とし、下宿や一人暮らしの市外出身学生が地域住民と一緒に活動し交流を図りながら、また、専門分野の学生が訓練に関わることで専門の学びを活かしながら、質の高い避難所づくりの実践を目指した。

令和７年度弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会

開催日	令和８年３月10日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部４階多目的ホール 【対象】一般市民 【参加人数】25人
講　師	チーム北リアス（野田村）　現地事務所長　貫牛　利一 八戸工業高等専門学校　総合科学教育科　嘱託教授　河村　信治
内　容	令和７年度当センターの活動を振り返る活動報告会を開催し、今後に向けた課題および方策について意見交換を行い、来年度以降のセンター運営を検討した。また、東日本大震災をきっかけに設立され今年度で15年目となる当センターの歩みについても振り返り、参加者に経験と教訓を共有するとともに、今後も起こりうる災害への備えについて考えると同時に、弘前市民のボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動参加を推進していくことを目指す。併せて、積極的に各種ボランティア活動に参加しボランティアポイントを一定数獲得した学生への表彰を行った。

むつサテライトキャンパス公開講座「食育健康講座」

開催日	① 令和７年７月25日　② 令和７年８月22日　③ 令和７年９月26日 ④ 令和７年10月17日
主催・共催・後援など	【主催】むつサテライトキャンパス運営委員会
会場・対象・参加人数	【会場】① 海老川コミュニティセンター集会室 ② むつ来さまい館イベントホールＢ ③ むつ来さまい館イベントホールＢ ④ 海老川コミュニティセンター集会室 【対象】むつ市民及び周辺市町村民 【参加人数】79人
講　師	① 弘前大学　名誉教授　加藤　陽治 料理研究家　坂本　謙二 ② 弘前大学農学生命科学部　准教授　前多　隼人 料理研究家　坂本　謙二 ③ 弘前大学　名誉教授　加藤　陽治 料理研究家　坂本　謙二

	④ 弘前大学農学生命科学部　准教授　前多　隼人 　料理研究家　坂本　謙二
内　容	身近な食材の機能とそれらを活かした調理方法について紹介する講座を実施した。 テーマ食材：①鶏肉 ②高野豆腐 ③いも類 ④キノコ類

むつサテライトキャンパス公開講座「ジオパーク講座」

開催日	① 令和７年７月13日　② 令和７年８月31日
主催・共催・後援など	【主催】むつサテライトキャンパス運営委員会
会場・対象・参加人数	【会場】①下北地域 ②下北地域 【対象】むつ市民及び周辺市町村民 【参加人数】32人
講　師	①弘前大学農学生命科学部　教授　中村　剛之 ②弘前大学理工学研究科　教授　折橋　裕二
内　容	①「川内川渓谷自然観察会」 ②「恐山火山：カルデラ形成後の火成活動を探る」

令和７年度弘前大学学生採用セミナー2025

開催日	令和７年９月17日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学地域創生本部
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学八戸サテライト 【対象】弘前大学学生採用実績または採用意向のある事業所の人事・採用担当者 【参加人数】27人
講　師	弘前大学人文社会科学部　准教授　髙島　克史 弘前大学学務部学生課　就職支援室長　木村　洋 株式会社アンカリンク　代表取締役　安部　真之介 株式会社帝国データバンク八戸支店　支店長　小原　圭介
内　容	地元企業の採用力向上を目的として、弘前大学の学生の就職観や就職環境に関する最新情報を提供することで、採用活動の戦略化と本学との関係構築の深化を目指し開催した。

令和７年度弘前大学八戸サテライト歴史セミナー「お墓と墓石の歴史」

開催日	令和７年12月20日
主催・共催・後援など	【共催】弘前大学地域創生本部、公益財団法人シルバーリハビリテーション協会 【後援】八戸市（八戸ブックセンター）、八戸市教育委員会、八戸商工会議所
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学八戸サテライト 【対象】市民一般 【参加人数】23人
講　師	弘前大学人文社会科学部　教授　関根　達人

内　容	地域へ本学の教育・研究成果を広く社会還元し、地域課題解決に資することを目的に、お墓と墓石の歴史を振り返ることで、お墓のあり方について共に考えるセミナーを実施した。

「弘前大学学生採用セミナー2026 in 十和田」

開催日	令和８年３月19日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学地域創生本部
会場・対象・参加人数	【会場】青い森信用金庫十和田営業部３階会議室 【対象】弘前大学学生採用実績または採用意向のある事業者（企業）の人事採用担当者 【参加人数】18人
講　師	弘前大学人文社会科学部　准教授　髙島　克史 弘前大学学務部就職支援室　係長　板垣　学 株式会社アンカリンク　代表取締役　安部　真之介 株式会社帝国データバンク八戸支店　支店長　小原　圭介
内　容	十和田市を中心とする上十三地区は八戸地区に次いで食品、機械、弱電等の製造業者が進出、また建設業も盛んな地区で、弘前大学の学生採用ニーズを一定数抱えている。就職支援室が行う学生企業見学バスツアーにおいても、十和田地区の企業からの見学の要請が多い。十和田地区では初の試みとなる今回は、学生採用に関する有効かつ最新情報を提供し、企業側も採用促進の創意工夫を進めて、学生の地元定着の受け皿増に結びつくことを目指し開催した。

（14）教育推進機構

高大連携事業　弘前大学 English Lounge　セミナー　オープニングイベント

開催日	① 令和７年４月18日　② 令和７年10月10日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象・参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森高校、青森南高校、八戸高校、弘前南高校の生徒 【参加人数】44人
講　師	弘前大学教育推進機構　講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構　助教　ヤグノ・ライク
内　容	令和３年度から引き続き、県内高等学校の協定校の一部に公開予定のイングリッシュ・ラウンジのセミナーを高校生に親しみやすく参加してもらうために開いたオープニングイベントを実施した。

高大連携事業　弘前大学 English Lounge・セミナー（前期）

開催日	令和７年４月22日～８月１日　火曜～金曜日
開催回数	58回
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象・参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森高校、青森南高校、八戸高校、弘前南高校の生徒 【参加人数】130人

講　師	弘前大学教育推進機構　准教授　バードセル・ブライアン 弘前大学教育推進機構　准講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構　助教　　ヤグノ・ライク
内　容	English Loungeで提供するセミナー、火曜日Communication in Global English、 水曜日Practical Translation Skills、 木曜日English Communication、 金曜日Studying and Living Abroad をZoomにより公開した。

教養教育開発実践センター　サマーセミナー　Discover HIRODAI in English!

開催日	令和７年８月７日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学総合教育棟　English Lounge 【対象】協定のある高等学校 【参加人数】４人
講　師	弘前大学教育推進機構　准教授　バードセル・ブライアン 弘前大学教育推進機構　准講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構　助教　　片桐　早苗
内　容	キャンパス内において、英語を使いながらScavenger Hunt （宝探し）のアクティビティを行い、高校生にとって英語の実践的な練習と、気軽なオープンキャンパス前の弘前大学のキャンパス案内にもなるプロジェクトを実施した。

弘前大学 English Lounge 小中学生のための英語教室　弘大の多国籍教員と

開催日	令和７年８月16日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象・参加人数	【会場】オンライン 【対象】全国の小中学生 【参加人数】10人
講　師	弘前大学教育推進機構　講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構　助教　ヤグノ・ライク
内　容	英語を使って楽しく活動しながら、主体的に英語を話すことを体験する。。 小学生（午前の部）：自分の身近な本、ものを英語で紹介できるように練習した。 中学生（午後の部）：英語でのインタビュー方法を練習し、外国出身の人と交流することにより、外国文化について学んだ。

弘前大学 English Lounge　市民公開講座～英語で知る文化の違い～

開催日	① 令和７年６月６日　② 令和７年６月13日　③ 令和７年11月21日 ④ 令和７年11月28日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター

会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学総合教育棟　English Lounge 【対象】英語や海外文化について興味のある弘前市民 【参加人数】63人
講　師	弘前大学教育推進機構　講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構　助教　ヤグノ・ライク 弘前大学教育推進機構　助教　片桐　早苗
内　容	英語を使いながらアメリカとドイツの文化について学び、自分の身近な文化について振り返る、インタラクティブな講座を実施した。英語レベルによって適切な教材を使って、読む・話す指導を行い、初心者の方やどちらかのみの参加も可能とした。

高大連携事業　弘前大学 English Lounge・セミナー（後期）

開催日	令和７年10月14日～１月30日　火曜日～金曜日
開催回数	50回
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象・参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森高校、青森南高校、八戸高校、弘前南高校の生徒 【参加人数】120人
講　師	弘前大学教育推進機構　准教授　バードセル・ブライアン 弘前大学教育推進機構　講師　　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構　助教　　ヤグノ・ライク
内　容	English Loungeで提供するセミナー、火曜日News Topics in English、 水曜日US Culture in English、木曜日English Communication、 金曜日Cultural Topics in EnglishをZoomにより公開した。

（15）研究・イノベーション推進機構

弘前大学令和７年度スタートアップサロン

開催日	① 令和７年４月11日　② 令和７年５月30日　③ 令和８年２月13日
主催・共催・後援など	【主催】国立大学法人弘前大学 研究・イノベーション推進機構 【共催】公益財団法人２１あおもり産業総合支援センター 【後援】あおもり創生パートナーズ株式会社
会場・対象・参加人数	【会場】① 弘前大学総合教育棟４階401講義室（ハイブリッド） ② 弘前大学総合教育棟４階406講義室（ハイブリッド） ③ 弘前大学理工学部２号館第11講義室 【対象】弘前大学教職員・学生、青森県内の大学/高専の教職員・学生、ひろさき産学官連携フォーラム会員、イノベーションネットワークあおもりメンバー、MASP参画大学の教職員・学生 【参加人数】429人

講　師	① 株式会社日本農業　代表取締役CEO　内藤　祥平 ② ハイラブル株式会社　代表取締役　水本　武志 ③ AMD コーポレート・バイスプレジデント　佐々木　夏光 株式会社ディジタルメディアプロフェッショナル 代表取締役兼社長CEO　山本　達夫
内　容	スタートアップ創出のための起業活動支援プログラムの一環として、実際の起業家との交流を通して、起業家教育の醸成並びに教員・学生等が起業を目指す動機付けとすることを目的としたプログラムを実施した。

弘前大学先輩起業交流会及び個別起業相談会

開催日	① 令和７年６月９日　② 令和７年12月16日
主催・共催・後援など	【主催】国立大学法人弘前大学 研究・イノベーション推進機構 【共催】公益財団法人21あおもり産業総合支援センター 【後援】あおもり創生パートナーズ株式会社、ひろさき産学官連携フォーラム
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学文京キャンパスオープンイノベーションプラザ（ハイブリッド） 【対象】弘前大学教職員・学生、青森県内の大学/高専の教職員・学生、起業に関心のある方、ひろさき産学官連携フォーラム会員、イノベーションネットワークあおもりメンバー、MASP参画大学の教職員・学生 【参加人数】60人
講　師	① HONESTIES株式会社　CFO/CRO　濱野　逸人 ② 合同会社ＮＴＭ　CEO　村井　誠剛
内　容	スタートアップ創出のための起業活動支援プログラムの一環として、本学医学部卒業の先輩起業家を招き、医師としてのキャリアからスタートアップの経営陣として転身された経緯や医師の経験をどのように生かしているのか、そして現在取り組まれている事業について講演いただくとともに交流を図る目的で開催した。交流会前には希望者による個別起業相談会も開催した。

令和７年度弘前大学知財塾

開催日	令和８年２月13日
主催・共催・後援など	【主催】国立大学法人弘前大学 研究・イノベーション推進機構 【共催】国立大学法人弘前大学 健康未来イノベーション研究機構、ひろさき産学官連携フォーラム、大学コンソーシアム学都ひろさき
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学（オンライン） 【対象】弘前大学教職員、大学生、大学院生、ひろさき産学官連携フォーラム会員、大学コンソーシアム学都ひろさき加盟大学教職員、MASP参画大学の教職員・学生 【参加人数】35人
講　師	株式会社薬事法マーケティング事務所　代表取締役　渡邉　憲和
内　容	知財に対するリテラシー向上、研究活動における知財への意識啓もうを目的として「法令を踏まえたエビデンスの正しい情報発信の仕方」をテーマに開催した。

（16）健康未来イノベーション研究機構

岩木健康増進プロジェクト活用研究会

開催日	① 令和７年５月13日　② 令和７年７月22日　③ 令和７年９月29日 ④ 令和７年10月14日　⑤ 令和８年１月13日

主催・共催・後援など	【主催】弘前大学健康未来イノベーションセンター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学健康未来イノベーションセンター、オンライン 【対象】学内講座、参画企業、参画機関の関係者 【参加人数】620人
講　師	弘前大学健康未来イノベーション研究機構　助教　石田　水里 弘前大学健康未来イノベーション研究機構　助教　岩根　拓朗 弘前大学大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンター　助教　沢田　かほり 弘前大学大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンター　特任助教　田中　吏 花王株式会社特命エキスパート/弘前大学COI-NEXT　社会実装副統括(SIL)　桂木　能久 弘前大学大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンター　特任助手　横山　慎太朗 弘前大学健康未来イノベーション研究機構　特任助手　倉内　静香 弘前大学大学院医学研究科附属健康・医療データサイエンス研究センター 医療データ解析学　准教授　山口　亨 弘前大学大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンター　特任講師　田中　直
内　容	岩木健康増進プロジェクト健診、いきいき健診に関する説明等を実施した。

ゲノム解析講習会

開催日	① 令和７年12月２日　② 令和７年12月９日　③ 令和７年12月16日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学健康未来イノベーションセンター 【協力】東京大学
会場・対象・参加人数	【会場】① 弘前大学健康未来イノベーションセンター、オンライン ② 弘前大学大学院医学研究科基礎第一講義室、オンライン ③ グローバルWell-being総合研究棟４階セミナー室、オンライン 【対象】学内講座、参画機関、他大学の先生方 【参加人数】105人
講　師	東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター　教授　井元　清哉 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター　助教　佐藤　憲明 弘前大学大学院医学研究科附属健康 医療データサイエンス研究センター長/教授　玉田　嘉紀
内　容	近年急速に重要性を増しているゲノムデータを用いた研究を促進するための講習会を実施した。

弘前大学COI-NEXT Well-being イノベーションフォーラム2025(WEB併用)

開催日	令和７年9月12日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学、青森県、弘前市 【後援】文部科学省、(国研)科学技術振興機構(JST)
会場・対象・参加人数	【会場】東京都：一橋講堂 【対象】一般市民、学生、大学、企業、研究機関等 【参加人数】2,800人
講　師	・弘前大学長　福田　眞作 ・青森県知事　宮下　宗一郎 ・弘前市長　櫻田　宏 ・文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課長　国分　政秀

	・内閣官房政策参与(グローバル・スタートアップ・キャンパス構想推進室)/前内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長　松尾　泰樹 ・(国研)科学技術振興機構(JST)共創の場形成支援プログラム共創分野地域共創分野第１領域副プログラムオフィサー　吉田　輝彦 ・弘前大学COI-NEXT拠点長(PL)/弘前大学副学長(Well-being戦略担当)教授/グローバルWell-being総合研究所　副所長　村下　公一 ・東京大学名誉教授/順天堂大学大学院健康データサイエンス研究科 特任教授　大江　和彦 ・DeNAチーフエコノミスト/元内閣官房海外ビジネス投資支援室長/内閣審議官　大矢　俊雄 ・青森県弘前市健康こども部長　佐伯　尚幸 ・青森県青森市保健部青森市保健所健康づくり推進課　課長　種市　靖子 ・青森県教育庁スポーツ健康課体育・健康グループ　指導主事　山口　星 ・弘前市食生活改善推進員会会長/中南保健所管内食生活改善推進員連絡協議会 会長　斎藤　明子 ・弘前大学生協学生委員会(弘前大学医学部保健学科２年)　中島　伊緒理 ・東京大学大学院薬学系研究科　特任准教授　五十嵐　中 ・DeSCヘルスケア株式会社代表取締役社長/弘前大学COI-NEXT副拠点長(SPL) 社会実装統括(IL)　瀬川　翔 ・花王株式会社研究開発部門特命エキスパート/弘前大学Well-being社会実装本部長補佐/COI-NEXT社会実装副統括(SIL)　桂木　能久 ・京都大学大学院医学研究科　特定准教授/京都大学サテライト拠点長代理(サイバー戦略TL代理)　内野　詠一郎 ・弘前大学大学院医学研究科附属健康・医療データサイエンス研究センター長 教授　玉田　嘉紀 ・東京大学大学院情報学環　准教授　上村　鋼平 ・名古屋大学大学院医学系研究科　准教授　中杤　昌弘 ・京都府立医科大学副学長　大学院医学研究科 教授/京都府立医科大学サテライト 拠点長　的場　聖明 ・名桜大学　学長　砂川　昌範 ・京都府立医科大学大学院医学研究科　教授　成本　迅 ・クラシエ株式会社R&D本部ウェルビーイングリサーチセンター 主任研究員(グループ長)　渡部　晋平 ・明治安田生命保険相互会社・株式会社明治安田総合研究所フェロー　加藤　大策 ・雪印メグミルク株式会社ミルクサイエンス研究所　フェロー　小林　敏也 ・マツダ株式会社技術研究所次世代人間中心システム研究部門　統括研究長　本田　正徳 ・株式会社博報堂PR局　チーフPRディレクター　橋本　真人 ・日本コープ共済生活協同組合連合会総合マネジメント本部組合員参加推進部 部長　堀口　幸子 ・青森県生活協同組合連合会　専務理事　三浦　雅子 ・東北化学薬品株式会社受託解析・プログラム研究開発グループ　統括　伊藤　昭洋 ・マルマンコンピュータサービス株式会社企画・営業部シニアマネージャー　宮本　真弓 ・株式会社宮田総研代表取締役社長/株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役社長　宮田　満 ・COI-NEXT共創の場形成推進会議委員/名古屋大学大学院医学系研究科附属健康医療ライフデザイン統合研究教育センター　特任教授　水野　正明 ・青森県立中央病院　院長/弘前大学COI-NEXT副拠点長(SPL)　研究統括(RL)/大学院医学研究科　特任教授　廣田　和美 ・弘前大学COI-NEXT副拠点長(SPL)　研究統括(RL)/大学院医学研究科長　教授　石橋　恭之 ・青森県医師会健やか力推進センター長/弘前大学COI-NEXT拠点 最高顧問(弘前大学特別顧問)　中路　重之 ・味の素株式会社R&B企画部フードテックグループ　水柿　亜実

	・株式会社明治安田総合研究所　主任研究員　瀬領　大輔 ・カゴメ株式会社食健康研究所　シニアスペシャリスト　菅沼　大行 ・セントラルスポーツ株式会社セントラルフィットネスクラブ弘前　店長　佐々木　誠 ・弘前大学理事(研究担当)　副学長　教授　曽我　亨
内　容	健康を基軸とした「経済発展モデル」と「全世代アプローチ」でwell-beingな地域共創社会の実現および、これまでのCOI活動成果を基盤に、健康(QOL) の本質的課題解決へ向けてさらに力強く挑戦し、STI for SDGs の理念のもと、地域から世界の健康づくり(SDGs) への貢献をめざす。新健康未来イノベーション戦略の実現に向け、未来の地域社会モデル、ヘルスケア産業創出等について第一線の産学官金民関係者が一大集結し、熱く議論した。

2025年度いきいき健診結果説明会

開催日	令和７年10月14日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学健康未来イノベーションセンター
会場・対象・参加人数	【会場】弘前文化センター２階小ホール 【対象】一般市民（いきいき健診受診者） 【参加人数】100人
講　師	弘前大学　特別顧問　中路　重之 弘前大学健康未来イノベーションセンター長／教授　三上　達也 整形外科学講座　田中　直 脳神経内科　今　智矢 精神科　赤坂　海 心理支援科学科　大庭　輝
内　容	いきいき健診の結果についての説明、個別相談会を実施した。

2025年度岩木健康増進プロジェクト プロジェクト健診結果説明会

開催日	令和７年10月27日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学健康未来イノベーションセンター
会場・対象・参加人数	【会場】岩木文化センターあそべーる１階ホール 【対象】一般市民（岩木健診受診者） 【参加人数】130人
講　師	弘前大学　特別顧問　中路　重之 健康未来イノベーションセンター　三上　達也 健康未来イノベーションセンター　田中　直 消化器血液免疫内科学　佐藤　諭 歯科口腔外科　田村　好拡 整形外科　和田　簡一郎 泌尿器科　藤田　尚紀 鼻咽喉科・頭頸部外科学　野村　彩美 青森県栄養士会管理栄養士
内　容	岩木健康増進プロジェクト プロジェクト健診の結果についての説明、個別相談会を実施した。

弘前大学COI-NEXT Well-being イノベーションサミット2026(WEB併用)

開催日	令和８年２月６日

主催・共催・後援など	【主催】弘前大学、青森県、弘前市 【共催】青森県医師会、健やか力推進センター、ひろさき産学官連携フォーラム 【後援】文部科学省、(国研)科学技術振興機構(JST)
会場・対象・参加人数	【会場】アートホテル弘前シティ 【対象】一般市民、学生、大学、企業、研究機関等 【参加人数】3,100人
講　師	・弘前大学長　福田　眞作 ・青森県知事　宮下　宗一郎 ・弘前市長　　櫻田　宏 ・文部科学省　科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課長　国分　政秀 ・内閣官房政策参与(グローバル　スタートアップ・キャンパス構想推進室)/前内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長　松尾　泰樹 ・(国研)科学技術振興機構(JST)共創の場形成支援プログラム共創分野　地域共創分野第１領域副プログラムオフィサー　吉田　輝彦 ・弘前大学COI-NEXT拠点長(PL)/弘前大学副学長(Well-being戦略担当)　教授/グローバルWell-being総合研究所　副所長　村下　公一 ・東京大学　名誉教授/順天堂大学大学院健康データサイエンス研究科 特任教授　大江　和彦 ・DeNAチーフエコノミスト/元内閣官房海外ビジネス投資支援室長/内閣審議官 大矢　俊雄 ・青森県弘前市健康こども部長　佐伯　尚幸 ・青森県青森市保健部青森市保健所健康づくり推進課　課長　種市　靖子 ・青森県教育庁スポーツ健康課体育　健康グループ　指導主事　山口　星 ・弘前市食生活改善推進員会会長/中南保健所管内食生活改善推進員連絡協議会 会長　斎藤　明子 ・弘前大学生協学生委員会(弘前大学医学部保健学科２年)　中島　伊緒理 ・東京大学大学院薬学系研究科　特任准教授　五十嵐　中 ・DeSCヘルスケア株式会社代表取締役社長/弘前大学COI-NEXT副拠点長(SPL) 社会実装統括(IL)　瀬川　翔 ・花王株式会社　研究開発部門特命エキスパート/弘前大学Well-being社会実装本部長補佐/COI-NEXT社会実装副統括(SIL)　桂木　能久 ・京都大学大学院医学研究科　特定准教授/京都大学サテライト拠点長代理(サイバー戦略TL代理)　内野　詠一郎 ・弘前大学大学院医学研究科　附属健康・医療データサイエンス研究センター長 教授　玉田　嘉紀 ・東京大学大学院　情報学環　准教授　上村　鋼平 ・名古屋大学大学院医学系研究科　准教授　中杤　昌弘 ・京都府立医科大学副学長　大学院医学研究科　教授/京都府立医科大学サテライト 拠点長　的場　聖明 ・名桜大学　学長　砂川　昌範 ・京都府立医科大学大学院医学研究科　教授　成本　迅 ・クラシエ株式会社R&D本部ウェルビーイングリサーチセンター 主任研究員(グループ長)　渡部　晋平 ・明治安田生命保険相互会社　株式会社明治安田総合研究所フェロー　加藤　大策 ・雪印メグミルク株式会社ミルクサイエンス研究所　フェロー　小林　敏也 ・マツダ株式会社技術研究所　次世代人間中心システム研究部門　統括研究長　本田　正徳 ・株式会社博報堂PR局　チーフPRディレクター　橋本　真人 ・日本コープ共済生活協同組合連合会　総合マネジメント本部組合員参加推進部 部長　堀口　幸子 ・青森県生活協同組合連合会　専務理事　三浦　雅子 ・東北化学薬品株式会社　受託解析　プログラム研究開発グループ　統括　伊藤　昭洋

	・マルマンコンピュータサービス株式会社企画　営業部シニアマネージャー　宮本　真弓 ・株式会社宮田総研　代表取締役社長/株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役社長　宮田　満 ・COI-NEXT共創の場形成推進会議委員/名古屋大学大学院医学系研究科附属健康医療ライフデザイン統合研究教育センター　特任教授　水野　正明 ・青森県立中央病院　院長/弘前大学COI-NEXT副拠点長(SPL)　研究統括(RL)/大学院医学研究科　特任教授　廣田　和美 ・弘前大学COI-NEXT副拠点長(SPL)　研究統括(RL)/大学院医学研究科長　教授　石橋　恭之 ・青森県医師会健やか力推進センター長/弘前大学COI-NEXT拠点 最高顧問(弘前大学特別顧問)　中路　重之 ・味の素株式会社R&B企画部フードテックグループ　水柿　亜実 ・株式会社明治安田総合研究所　主任研究員　瀬領　大輔 ・カゴメ株式会社食健康研究所　シニアスペシャリスト　菅沼　大行 ・セントラルスポーツ株式会社セントラルフィットネスクラブ弘前　店長　佐々木　誠 ・弘前大学理事(研究担当)副学長　教授　曽我　亨
内　容	健康を基軸とした「経済発展モデル」と「全世代アプローチ」でwell-beingな地域共創社会の実現および、これまでのCOI活動成果を基盤に、健康(QOL) の本質的課題解決へ向けてさらに力強く挑戦し、STI for SDGs の理念のもと、地域から世界の健康づくり(SDGs) への貢献をめざす。新健康未来イノベーション戦略の実現に向け、未来の地域社会モデル、ヘルスケア産業創出等について第一線の産学官金民関係者が一大集結し、熱く議論した。

令和７年度岩木健康増進プロジェクト市民公開講座

開催日	令和８年２月15日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学健康未来イノベーションセンター
会場・対象・参加人数	【会場】ヒロロ４階　市民文化交流館ホール 【対象】一般市民 【参加人数】75人
講　師	弘前大学特別顧問　中路　重之 健康未来イノベーションセンター　三上　達也 歯科口腔外科学講座　小林　恒 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座　葛西　崇 内分泌代謝内科学講座　寺田　明秀 花王株式会社　武士田　寛人 雪印メグミルク株式会社　河田　大輔 セントラルスポーツ株式会社　佐々木　誠
内　容	岩木健康増進プロジェクト結果報告、デモ体験、学内講座および参画企業の講師による講演を実施した。

(17) 男女共同参画推進室

男女共同参画トップセミナー

開催日	令和７年12月19日
主催・共催・後援など	【主催】弘前大学男女共同参画推進室
会場・対象・参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール、オンライン（Zoom） 【対象】弘前大学、北東北ダイバーシティ研究環境推進コミッティ、北東北国立３大学連携推進会議連携協議会、あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク、テーマに興味のある他大学や市民

	【参加人数】60人
講　師	国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター　センター長　小宮　ひろみ
内　容	「『支える』から『ともに創る』へ～女性研究者のエンパワーメントと共創～」をテーマとした講演会を実施した。

（18）大学コンソーシアム学都ひろさき

大学コンソーシアム学都ひろさき５大学合同シンポジウム

開催日	令和７年12月14日
主催・共催・後援など	【主催】大学コンソーシアム学都ひろさき 【共催】弘前市
会場・対象・参加人数	【会場】土手町コミュニケーションプラザ 【対象】学生、市民、大学関係者、行政関係者等 【参加人数】170人
講　師	弘前医療福祉大学短期大学部救急救命学科　学科長　立岡　伸章
内　容	「防災の基本は『自助』にあり ～『自助』から始める、命を守る防災の備え～」をテーマとした講演会を開催した。

Ⅴ．各学部・研究科等の地域連携・地域貢献に関する取組事例

学部等	人文社会科学部
取組名	地域未来創生塾@中央公民館
内容等	本事業は、「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全５回の講座を開催した。 具体的には、人口減少にともなう様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策を模索するために、弘前大学人文社会科学部の教員が、ワークショップ形式で学びを深めた。 ［参考URL］https://www.city.hirosaki.aomori.jp/chuokominkan/chiiki_mirai.html

学部等	人文社会科学部
取組名	消費者フォーラム in HIROSAKI
内容等	消費者フォーラム in HIROSAKIは弘前大学の消費者教育推進事業の一環として、2015年度以来毎年開催している。弘前大学の教職員や学生、青森県内の大学生・高校生・中学生が、消費者問題に関する調査研究の成果を学内や地域に発表する場とした。 ［参考URL］https://www.hirosaki-u.ac.jp/events/110412/

学部等	教育学部
取組名	弘前大学教育学部附属四校園公開研究会
内容等	「自ら考え 自律的に行動する子の育成」を全体研究テーマとした合同公開研究会を開催した。今年度は対面で実施し、後日オンデマンド配信（限定公開）を行った。今年度は５回目となり、社会、外国語活動・英語、体育・保健体育の各教科の公開授業や研究協議会を行った。また、広島都市学園大学子ども教育学部　教授　竹林地 毅　氏を講師に招き、「自分らしく生きていく児童生徒を育む教育課程と授業」をテーマとした講演会を実施した。 ［参考URL］https://www.hirosaki-u.ac.jp/topics/109627/

学部等	教育学部
取組名	令和７年度中堅教諭等資質向上研修（前期・後期）における選択講座の代替講座
内容等	弘前大学教育学部及び教職大学院では、青森県内の現職教員を対象として、「中堅教諭等資質向上研修」における選択講座の代替講座を実施している。令和７年度においては、道徳科や体育科の授業改善、学習評価（ルーブリック活用）、協働的な学校づくり、教科横断的な探究学習などをテーマとした複数の講座を開講し、学校現場の課題に対応した実践的な研修機会を提供した。 ［参考URL］https://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/4663.html

学部等	農学生命科学部
取組名	弘前大学農学生命科学部アグリ・カレッジ2025
内容等	日本農業・地域農業と農村地域の将来が危ぶまれる今日、地域に開かれた大学が果たすべき役割として、高校生を対象に将来の地域農業・農村地域の担い手を育成することである。具体的には高校生がオンラインで（週１日×２回）講義を受講することによって、将来の地域農業・農村地域の担い手を目指す意識を育てようとするものである。青森県内高校生を対象に広く広報し、県内10校から34名が参加し、13名が修了した。

	［参考URL］https://nature.hirosaki-u.ac.jp/news/21860/

学部等	農学生命科学部
取組名	リンゴとチューリップのフェスティバル
内容等	リンゴやチューリップの花が咲きそろう時期に農場を一般公開し、地域の住民に楽しんでいただくと共に、本学における教育・研究および社会貢献の成果について知ってもらうことで、地域との結びつきをより深めることができた。 ［参考URL］https://www.hirosaki-u.ac.jp/events/103072/

学部等	農学生命科学部
取組名	農学生命科学部附属白神自然環境研究センター 「ＢｉｏＢｌｉｔｚ(市民参加型生物調査イベント)」
内容等	青森県内外から動植物の専門家、市民を集め、深浦町の観光施設「アオーネ白神十二湖」において、市民参加型生物多様性調査イベント「白神 BioBlitz 2025」を開催した。２日間で100名以上の市民、研究者などの参加があり、計838種の生物が確認された。

学部等	医学研究科
取組名	青森県定着枠学生に対する進路面談
内容等	青森県定着枠で入学した学生に対し、相談があれば随時学務委員による進路面談を行い、地域枠対象学生のキャリア相談・支援を行うとともに、青森県内への定着を促進した。

学部等	国際連携本部
取組名	青森県連携海外研修プログラム
内容等	本事業は、青森県庁および地元企業との連携により実施された海外研修プログラムであり、本学学生が米国ハワイで開催されたホノルルフェスティバルにおいて観光PR活動を行うとともに、現地で活躍する日本人との交流や協定校における教育プログラムに参加した。事前学習として、青森県庁での学習会や企業訪問に加え、弘前市の観光イベント運営にも参加し、青森県および弘前市の魅力を来場者に発信することで、地域資源のPRに実践的に取り組んだ。これらの取組を通じて、青森県の観光および県産品の認知向上に寄与するとともに、参加学生は課題解決力・協働力・異文化理解力・国際的視野を実践的に習得し、地域への理解と愛着を深める成果が得られた。今後は、成果報告会等を通じて地域社会への情報還元を行うことで、地域の国際化推進に対する波及効果が期待される。

学部等	被ばく医療総合研究所 被ばく医療連携推進機構
取組名	災害支援医療従事者養成講座（履修証明プログラム）
内容等	青森県内外の医療機関、原子力関連機関所属者などを対象に、今後予想される日本海溝・千島海溝を震源とする巨大地震、原子力災害を含めた各種災害発生時に医療従事者の支援が可能な人材育成を目的に令和５年度より開講している。 本講座では、「災害原理と防災」（オンデマンド授業15回）、「災害医療の基礎」（オンライン授業15回）、「災害・被ばく医療演習」（対面授業２日間）のカリキュラムを実施し、修了生33名に対して「災害支援医療従事者」の称号を付与した。 ［参考URL］https://remcp.hirosaki-u.ac.jp/category/education/

総合窓口

地域活性化や地域課題に関する相談窓口
地域創生推進室

弘前大学 地域創生本部 地域創生推進室
TEL 0172-39-3736
※地域連携推進部門、地域創生人材育成部門も同じ連絡先です。
〒036-8560　青森県弘前市文京町1番地 総合教育棟1階
chiiki_honbu@hirosaki-u.ac.jp

その他お問い合わせ先

ボランティアセンター

弘前大学 地域創生本部 ボランティアセンター
TEL 0172-39-3268　FAX 0172-34-5251
〒036-8560　青森県弘前市文京町1番地 大学会館2階
huvc@hirosaki-u.ac.jp

八戸サテライト

弘前大学 八戸サテライト
TEL 0178-43-1600
〒031-8511　青森県八戸市堀端町2-3 八戸商工会館1階
hachisate@hirosaki-u.ac.jp

青森サテライト

弘前大学 青森サテライト
TEL 017-766-3500
〒038-8505　青森県青森市柳川2-1-1
青森市役所柳川庁舎内1階
aosate@hirosaki-u.ac.jp

国立大学法人　弘前大学　〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
TEL 0172-36-2111 (代表)　弘前大学ホームページhttps://www.hirosaki-u.ac.jp/

編集・発行　弘前大学社会連携部社会連携課（2026(令和８)年10月発行）